# 青鞜

七月號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

# 青鞜

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

七月號目次


兒童の世紀（翻譯） 一 山田わか
眞實の心より（小說） 一五 濱野雪
斷章（詩） 四一 齋賀琴
處女作（小說） 四四 千原代志
幕間になる迄（戯曲） 五五 岡田ゆき


Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

獸性と人間性に就いて（論文）　六五　原田皐月
青疊（小說）　七四　五明倭文
五月の末より六月へかけての芝居　八〇　岡田八千代
偶感　一二三　九七　野枝
編輯室より　一〇五　野枝
表紙　奥村博

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

# 兒童の世紀――エレン、ケイ――山田わか譯

## 第一章

### 兒童の兩親を選擇する權利

過去の悲しい追懷と未來に對する熱切な希望に滿たされて、人は世紀交代の日を待つた。そしていよ〳〵十九世紀の最後の鐘聲が報ぜられた時、彼等は數限りなき、言葉に云ひ現す事の出來ない前兆を感じた。彼等は、新世紀が少なくとも平和を齎す事は確かであらうと感じ、又は、意識的に或ひは無意識的に現に努力して變化の過程に貢獻して來た人々も其の變化のうちに何等新たな發達を見る事は出來ぬであらうとも感じた。

世紀の移變にあたつての世の狀態は、新世紀をして、恰も、今や地上に降らうとしつゝある、赤裸の小さき小兒の如き觀を與へた。彼は地上に近よりはしたが、武器で刺だらけになつた此の世界の有樣に怖氣て、後退りしなければならなかつた。新たに生れた世紀のためには、足を踏み入るゝに、一寸の自由の地を見出す事の出來ないやうな世界であつた此の殺氣だつた光景の意義に付いて、人は思考せねばならなかつた。經濟上の鬪爭及び戰



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

爭が、如何に、人類の劣等な、あらゆる惰性をそゝるか、又、十九世紀中の驚くべき文明の發達にも拘らず、何故人類の生存競爭の仕方は少しも改善されなかつたか、又、何故此の狀態が猶續かねばならぬかに付いて彼等は研究した。けれども其の結果の彼等の解釋は區々である。或る人はこう斷言して安じて居る。飢餓、生殖及び富、權力に對する慾望、此等の人間性が昔と同樣今も存在して居て世界の進路を支配して居るのだから、社會の狀態に變化があらう筈はない。と　又、他の人は、こう、信じて云ふ。世界の進向を變へやうとしての一千九百年間の教訓が無益であつたとしても、其れは外面だけなので、實は、いつか、其れが人間の靈魂のうちに生きた實體となつて現れる。そして劒は剪枝刀と變る時が來る。と

けれども私の確信は其等とは丁度反對である。社會の狀態は、人類の性質に變化が起るだけ、其れだけづゝ變遷して行くものである。そして、その人類の性質の變化は、何時、來るかと云ふと、其れは全人類が基督教徒になつた時ではない。けれども全人類が『子孫の神聖』を自覺した時である。そして此の自覺は、子供の出生其の起原、其の取扱ひ、及び其の教育を社會の中心事業とする。そして、凡ての道德、法律、及び凡ての社會的設備は、此れを標準として成立し、排列され、あらゆる問題はこれを標準に解決されるのであ

る。今日迄にも、敎育は國家の最高の職務であると、學校的演說や、敎育上の論文に於ては、唱導されて居た。けれども實際には、家庭も學校も又國家も、全然、別な要件を旣定して居るのである。人類が『子孫の神聖』と云ふ見解を信じるには、彼等が基督敎的人生觀を全く拋擲して、そして數千年も前に生れて居たが、やうやく此の十九世紀中に頭を擡げ始めた、人生觀をとらねばならぬ。

發達と云ふ觀念―人類を其の最後の、そして最高の點に置く―は過去、數百萬年間の世界の經過を說明するのみならず、猶、又、我々の未來をも輝して居る。則ち、我々人類は肉體的に心理的に常に進化しつゝある事を其れは證明して居る。往時は人類を肉體的に心理的に固定した現象として看做して居た。其の性質は完全には導き得るけれども變化さす事は出來ないものと信じて居た。が、今日では、人は自身を改造し得ると云ふ事が知られて來た。墮落した人と云ふ代りに我々は未成人と云ふ。彼は將來、無限の時間のうちに無數の變化を經て、一人の新人と生れ替る事が出來るのである。殆んど每日のやうに新知識は報道され、從來不可能と見做されて居た事を可能と呼んで居る事は確かに心理的に生理的に人類の力の擴張を證明して居る。內界と外界との密接なる關係、疾病驅除の術、青年期及び生命の延長、又は生理的及び心理的の法則を洞察する力の增進等、かくの如き新報



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

告は絶へず我々の耳にする處である。又、不活の盲者に一種の視力を與へ、死者を甦らすなぞと云ふ主張は、今は未だ、單なる假說に過ぎぬけれども心理學者及び物理學者は此れをも可能なるの丶中に數へて居る。とにかく、人類が未だ人類に至らなかつた時代からの其の變化を回顧し、解剖すれば、今日の狀態が、決して、人類創生の最後でない事が充分明らかである。人類の性質は常に同じで變化するものではない。其れは、人類が生れてから、僅か二三千年の間に、彼等が自身を知覺し始めた頃と丁度同じであると、今日、宣言する人があるとすれば其の人の考察力は、ユラ期に於ける鰐魚の其れと大差ないものである。其の頃の鰐魚は確かに今日の人類進步に付いては夢にも想像し得なかつたであらう。けれども人類が絶へざる進化を通じて今日に至つた事は、未來に於ける人類發達の可能、則ち、より高尙な人類になり得る事の證據である。人間の意志は動物界及び植物界を思ひのまゝに改良して行く。けれども我々人類の事になると、人間は其の改良及び向上を唯偶然の結果のやうに思ふて居る。人間は今日迄、唯、盲目な刺戟によつて無責任に行動して來たのだが、文明は其の行動の目的及び責任を自覺させなければならない。實に文化は、動植物界に驚くべき發達を現したにも拘らず、人類を新たにし、向上せしむる點に於いて最も後れて居る。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

古代の人間のもつて居た、肉體の意義に關する純直な確信を、今日、再興するには、人間に對する科學的見解の力を全部用ひねばならぬ。古代の末期に於ける、ソクラテス及びプラトーの敎へは靈が肉體を卑しめ、そして文學復興時代は靈肉の合致を計つた。けれども其の盡力は不幸にも充分眞面目なものにならずに終つた。勇氣を缺いて居たのではないけれどもゲーテの云へる如き嚴肅な目的をもつて大膽に近よらねばならぬ業を、其の當時は仕遂げ得なかつたのである。我々は、如何に靈と肉が共同に造られてあるか、或ひは又如何に靈と肉が相互ひを裏切つて居るかを知る故に人類は今、再び肉體の權利及び其の神聖を認め、其の不淨ならざる事を主張し始めたのである。

　結婚は二個の人間が共同生活をするため、偶然に出來た、唯、社會上の形式で、本當のかくべからざる道德の要素は其の形式ではなく、二個の人間の生活の仕方である事を人が知るや否や、モーセの十誡のうちの第七條が如何に無意味になつたかは、或る「でんまるく」の著者が指摘して居る。道德は、命令及び强制の客觀的原則から、行動を生み出す主觀的基礎に、置き替へられつゝある。倫理は品性の倫理となつた。其れは性格の素質を取り扱ふ。我々は各個人の內的素質によつて、要求もし、寬恕もし、判斷もする。客觀的の見解から、法律に背く行爲を我々は直ぐに不道德と云はぬ。各々の場合ひに各個人の內部の事



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

情に從つて事を決定する。此の見解から、今日の結婚法を見ると、此の形式は、其れが、兩性關係に對して適當な處理法であると云ふ保證を與へて居ない。眞の意味の兩性關係は形式結婚以外にも亦以內にも存在する。高尚な眞面目な人々は、形式結婚よりも、もつと遙か道德にかなつた兩性の關係を選む。其の結果、前述の十誡のうちの第七條の意味が變つて來る。此の誡は明らかに結婚以外の凡ての兩性關係を不道德として居るから。けれども人々は既でに結婚以外の共同生活の經驗を始めて居る。彼等は兩性關係の新しい形式を求めて居る。凡ての此等の問題は今や討論の種となつて居るのである。

人類は此の點に付いて、多くの發見の餘地をもつて居る。彼等は、今や、兩性の凡ての關係は如何に復雜な問題であるか、如何に危險の伴ふものであるかに付いて、益々目を開いて來た。個人に對し、子孫に對する兩性關係の意義に付いては絕へず新しい觀察が試みられて居る。此の渾沌たる狀態の中に漸々と光を漸す事は人類のため、最も要用な仕事である。故に文學は此の範圍に最大自由をもつべきである。けれども現今の傾向は丁度其れとは反對で、文學の此の自由は大ひに制限を加へられて居る。前述の兩性關係の見かたの傾向に付ひては、異議はないが此所に特に注意して置きたい事がある。人類の起因及び性質に付ひての基督敎の見解は此の問題を自由に論ずるに大なる障碍物である。墮落からの



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

唯一の逃れ道は基督を信仰するにあると云ふ、此の見解から、西方歐洲に於ては、種族の繼續に關するあらゆる事柄は淫猥である、出來得る限り抑壓せねばならぬ、がもし抑壓出來ぬとならば、少なくとも其等の事柄に付ひては沈默を守り、曖昧のうちに覆ひ隱して置かねばならぬ、と云ふ輿論が出來上がつた。基督敎の信仰によると、此の世の生命ではなく天上に於ける永遠の生命に重要な原動力がある。そして、此の生存の二元主義は、人間の生來の刺戟を高尙ならしめやうとはせず、却つて制慾主義をもつて第一に其の刺戟を除去しやうと試みる。此の見地が、今日、猶一般に受け容れられて居る事は、文學及び美術に於ける裸體を法律が禁じ得て居る事でも明瞭である。

兩性關係は汚辱なものだが、解除を許さぬ結婚によれば神聖になると云ふ基督敎の見かたは或る時期の間、人類發達の上に大なる直接な影響を與へた。其れは靈の生活を向上せしむる、自治の精神を涵養した。愼しみ、家庭生活、誠實が其のために鼓舞された。そして此等が他の無數の勢力に伴つて愛の刺戟を增進した。もし人間の愛に此等の情緖がなかつたとしたら、人間も動物も同等なものである。

配偶者間の愛情は常に人から遠ざかり、及び隱し立てを要する事、又人間の築いた貞節の心が人間を動物から區別して居ると云ふ事は差し支へないが、併し之に關する重要な諸問



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

題を徒らに羞ぢ、沈默のうちに葬り去り、或ひは戯言や廉恥心を引き起すものとして曖昧のうちに取り扱はうとする、此の種類の考へは人間の心の根底から取り去られねばならぬ。

此等の問題に對しては、各人が彼等の幼年時代から、彼等の發達の度に從つて適當な眞面目な敎へを受けて居らねばならぬ。かくして彼等は彼等自身、男としての或ひは女としての、天性を悟り、そして未來に於ける相互の關係に付いての責任を深く、感ずる事が出來る。人は此の問題に付いて、眞面目に考へ、眞面目に話す事の習慣を養はなければならない。かくの如くにして、始めて、高き道德と共に高尙な性的關係の存在を見る事が出來るのである。

ブジエルンソンが其の著『トーマス●レンデレン』に於て、若年者に自然の法則を知解せしめ、淸廉の心を養はしむべしと、論じた時、私は彼の著作に反對した。其の理由は、彼の說も基督敎の云ふ淸廉と同じで、自然の情慾を高尙化しやうとはせず、其れを抑壓するのが主意だからである。ブジエルンソンが二つの新しい見解――肉體の健康と性的關係の向上――を呈出した事は私が指摘して置いた如く確かである。彼は基督敎の主張する如く、此の問題に付いて、精神及び人格の方に偏しはしなかつた。此の點は確かに有意義である。何故ならば、此れは一致共同の感情が生んだ愛他主義に個人主義を結び付けたから。ブジ



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

エルンソンの大目的は、遺傳的の性情を、道徳に對する態度に關係ありとして、改善しやうとするのである。其故、彼は完全な、幸福な、新たな子孫を造り、今日の性的不調和に起因する、あらゆる苦痛を社會から取り去らうとするのである。そして彼は、學校は此の目的をもつて生徒に性的關係の知識を授け、且つ人類の義務として、彼等自身及び其の子孫を如何樣に庇護すべきかに付いて、敎へねばならぬと、主張したのである。

此の計畫にも私は反對した。此くの如き知識は學校が授くべきものではない。家庭に於て母が氣長に、注意深く敎ふべき事柄である。學校は、唯、理論の基礎を敎授する處である。猶、大なる缺點は彼の貞操說である。彼は積極的理想ではなく、消極的に、單に、肉體の淸淨を眼目として、此の問題を扱つて居る。けれど貞操に對する熱望は、戀愛の理想のみが其の覺醒を促すものである。そして物語歷史、及び美文學のうちに、かやうな理想の根底は造られねばならぬ。此の問題に關しての生理學上の知識は、思想及び感情が其の同じ方向に働くにあらずとは、甚だ不充分なものである。思想及び感情は、丁度、基督敎の敎訓に感化されないと同じやうな、自然科學や肉體の操練から、影響を受けるものではない。

我々は自然科學の基礎の上に、古代人のもつて居た、肉體の力と美とに對する崇拜心、

及び種々の繼續の神聖に對する尊敬心を、更に新しく、更に高尙ならしめなければならぬ。そして此れに、近世の自覺した理想的愛の精神的幸福を結合しなければならぬ。かくして初めて、眞の貞操に對する要求が、人類を、其の性的不調和、及び墮落の苦しみから、救ふ事が出來るのである。往時、婦人は種族繼續の役目を負ふものとして神性視され、又基督敎に於ては聖母として婦人が神性になつた。此の事實は深大な意味のある事である。此の古代及び基督敎の婦人觀が結合し、高尙にされて、婦人は女性としての尊敬を受けねばならぬ。古代の愛、近代の愛、感覺の愛、精神の愛、此等が結合し、高尙にされて、人類は男も女も等しく愛の神を全能なものとして崇拜せねばならぬ。

戀愛の意味を輕んじ、賤しむべき肉慾主義だとして其れに反抗したからとて、人類が高尙になるわけではない。却つて其れは人類を貶下する。何故なら、性的生活は動物性の特徵だとして人類が羞恥を感じて居る間は、其の生活は其れだけ低級である。種族繼續の業も下等な義務として考へられ、いや〳〵ながら營まれるならば此れも、亦、其れだけ低級なものである。

リカーガスの法律が、一國の力は强壯なる婦人の懷に養はる、と斷言した時に古代は現代に勝つて居た。それ故、スパルタに於ては婦人の體育を男子の其れと同樣に注視した。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

そして結婚年齢は健康な子を生み得る程度で定められた。猶太教は生殖に付いて嚴肅な概念をもつて居る事に關しては、上位に置かるべきである。此の確信は、史上に明らかな、あの嚴重な衛生に關する法律のうちに明白に現れて居る。他の東洋の法律の如く、「ゆだや」の法律は自然の法則及び疾病を精密に觀察した結果の飲食並びに性的道德の上に其の基礎が置いてある。此等の問題に付いての新道德の基礎は、人類が舊約全書的の敏捷及び嚴肅な態度をもつて、基督教の理想主義が精神化したけれども同時に貶下した、人生問題を取り扱ひ始める迄は、築く事は出來ないのである。

此處に云ふ新道德は、不健全なる子孫を造り或は子孫の發達に惡影響を及ぼすやうな結合でさへなくんば、如何なるかたちの男女の共同生活をも不道德と云はぬ。故に此の問題に關する十戒は宗教建設者の手ではなく、科學者によつて規定されねばならぬのである。併し、今日迄は、かやうな事柄に付いては、一部分は曲解の愼の結果、科學は人種改良の根本に於ける、生理的、心理的條件を充分に觀察する事が出來なかつた。

フォン●レヴエンホック及びグラーフ等に提唱された個體發生論(Ontogeny)は確に現世紀に於ける新科學である。此れは千八百二十七年フォン●ベールが其の基を建設して置いたものである。けれども此の新科學に付いては意見の違ひ、新學説の發見等、續出して何

時果つべしとも思はれぬやうな、今は、有樣である。純科學的見解が、社會的、生理的、又は倫理的見解と混合されて居る。母の食物を變更する事によつて胎兒の男女を定め得ると主張したり、或ひは又天才の五分の三は初腹の子である事を證明しやうと企てなどした。

子供の上に、兩親の年齡が如何なる影響を與へるかに付いて研究された。兩親のあまりに若年は、あまりに老年と同じく子供のために不利である。あまり若い母の兒は虛弱であるのみならず母自身が未だ子供時代にあるのだから、彼女は母たるの喜びを感ずる事も出來ず、且つ又彼女にとつては生理上、心理上、子供は大なる重荷である。强壯な發育のためさすれば若い婦人は數年の間何の繫累もなく其の靑春を樂しみ、自己啓發を計り而して母たるに適した身體の發達に達する事が出來る。最も早くて二十歲頃とは定めても實際にはもう數年遲れた方が結婚生活並びに子供のために幸福である。しば〳〵見る所の夫婦間の葛藤は、多くは、婦人が未だ其の人格も出來ず選擇の力もない時に、一生の運命を定めた事から起るのである。通常男子が愛の對者を選むが、選まれた婦人があまり若年だと、彼女は愛される幸福と、愛す幸福との區別がつかない。そして後には悲劇に陷るやうな事に



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

なるのである。遺傳及び自然陶汰に關する諸問題に關聯した一ッの問題がある。其れは最も性質の隔絶した男女の間に最も强い牽引力があると云ふ事實に付いて、自然の目的の意味を觀察する事である。此の牽引力は、往々、結婚生活中、嫌惡の情に變化する事がある。そして其の原因は、以前には彼等の心を强く引きつけた對者の特徴が鼻について怺へきれなくなつたのである。此の場合の自然は、彼女の目的を仕遂げるために、個人〲の幸福を大いに奪ふ事になる。が、併し兩親の相異る性質は彼等の間に生れる子供のうちに、よく調和されて現れる事もあるし、又時には全く對立して不調和に遺傳される事もある。勿論此の二ッの場合に例外も度々ある。此等の事柄に付いて滿足な解決を得るには未だかず〲の硏究を重ねなければならない。

後天的特性が遺傳されると云ふダーウィンの說と、遺傳は先天的特性に限ると云ふ、ゴールトン及びワイズマンの說との間に論戰はなか〲盛んである。そしてこれに伴つて血族結婚の問題が起つた。或る論者は、血族結婚は其れだけで有害だと說き、又他の論者は血族結婚其のものには害はないが、血族である以上は兩親のうちに同一の特性がある事は度々である。そして其の特性は子の上に二重に强くなつて現れる。たとへば兩親が生來近視眼であるならば。子の上には其の度が高まつて盲目となり兩親の愚鈍は子の白痴となり

兩親の憂鬱症は子の發狂になると云ふやうな恐れがあると說いた。

（つゞく）



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

# 眞實の心より——濱野　雪

その手紙を受取つた刹那に、私の心はたゞ直覺的に『さう〳〵』と叫んだ。まるで豫期してゐたものゝ如く、最後の手紙といふ事がはつきりと意識されたのである。私は暫時の間ぢつと身を固くして、見慣れた藍色の封筒を見詰めてゐた。それからしづかに封を切つた何か怖ろしいものにでも觸れるやうに、私の手がぶる〴〵と慄えた。でも、私は割に落着いてそれを讀む事が出來た。最初から行を追ふて、しつかりと讀んで行つた。

（その時のその態度を思ふ度、私はしみ〴〵と涙ぐむ。憎い自分ではあるけれど、矢張り泣いてやりたくなる。）

私は妙な卑怯者であつた。戀人から手紙を受けた時、夫が何か事件の起つてる時なれば尚の事、一方ではじり〳〵する程それを待設けながらも、亦一方では寧ろ恐れ戰いてた。この矛盾した二つの心が、いつも私を苦しめて、私は自分にさへも愧ぢ乍ら、そつと、そ



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

つと、宛名とそして終りの五六行とを慌てゝ讀む。――丁度夫に依て吉凶を占ふやうに。そしてやつと安心して、初めて最初から讀出すのが癖であつた。だのに、其夜に限つてしつかりと最初の行から讀んで行つた。――その心持を、私は自分ながら哀れに思ふ。それ程までに自分から求めた、この戀の苦しさに疲れ果てゝゐたのである。この生き乍らじり〳〵と生血を絞られるやうな、苦惱に疲れ果てゝゐたのである。

中程まで讀んで行つた時、私の眼がぴつたりと吸ひつけられたやうに動かなくなつて了つた。私の眼は同じ文字の上ばかり一心に眺めた。すると急に涙が湧いて來た。私は齒をくひしばつて泣いた。泣いた。

泣き乍ら、それでも最後までしつかりと讀んで行つた。それから『これはほんとうに考へなければならない』と、勵ますやうに自分の心に呟いた。烈しい惡寒を感じ乍らもう一枚羽織を重ねて、再度きちんと机の前に坐つた。十二時近い頃である。家中で私一人が目覺めてゐた。そして私一人が考へて居た。

初め私が直覺したやうに、世間並の戀の最後のやうに、只別れるといふだけの事ならば私は決して泣きはしなかつたであらう。また決して考へはしなかつたであらう。けれどIは、只別れるとは言はなんだ。『戀人としての昨日までを棄て去つて、新らしい友としての生活に生きやう』と言つて來た。其心持に泣かれたのである。其處に私は私より更に深く切なるIの苦惱を見た。そして泣いた。其涙は感謝の涙である。悔の涙である。

ほんとうに私は考へなければならぬ。

斯う思ふて、短いと言へば短く、長いと言へば長い、五月餘の戀の經路を虚心に顧みた時何よりも先づ私は私の不誠實であつた事に愧ぢた。Iに對して。又自分に對して。

不誠實――

この醜い呪ふべきしみが、二人の戀の記錄のどの頁の裏にも、まざ〳〵と眞黑な痕を殘して居る事を知つた時、私は慚愧と悲痛に戰慄した。しかも或場合には、意識しつゝ尚夫を行つた事を思ふて、私は恐怖と苦惱に聲をあげて泣いた。こんな醜い、こんなあさましい心を持つた女が、他にまたとあらうかと、私は自分で自分が憎くてたまらなくなつた。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

（實際私は恥かしい卑怯者である。自分のこの醜さあさましさを自覺して、耐らなく自分を憎み初めつゝも、まだ夫を人に知られる事をひどく怖れた。口惜しいとも考へた。けれど遂に私は懺悔せずには居られなくなつた。奈何しても書かずには居られなくなつた。夫を私は眞に喜ぶ。弱く卑怯であつた私の心の一隅に、よし僅でも斯る強さが芽ぐんで來た事を眞に眞に私は喜ぶ。

その目覺めたる眞實の心より、又僞らぬ懺悔の心より、私は血と涙を以て之を書く。

最初私がIに近づいたのは、決してIに對する戀を意識した爲では無かつた。たゞ其頃の私はやたらに寂しかつた。前の男と別れてから三年の間、佗しい孤獨の生活に飽き果て、もう誰かの手にすがらなければ一日も安んじては居られぬ程、強く愛に餓ゑてゐた爲である。あながちIに限られた事では無かつた。私のこの我儘な愛を受けて吳れる人でさへあつたならば、きつと私は奈何な人の許へでも走つたであらう。（それを私はほんとうに恥かしい事だと思ふ。けれど夫が眞實であつた。）そしてまた其頃私は病氣をした。每月の事ではあるけれど、其度に些細な事にも昂奮する癖の病的な心理が、殊に烈しく動搖して居た。私は每日熱臭い床の內に居て、涙を流したり、溜息をついたり、又は本を讀んだり



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

した。或日私は久しぶりでIの作物を讀んで見た。と急に私は不思議な程昂奮して來た。堪らなくIがなつかしく思つて來た。そして殆ど發作的に手紙を書いて了つた。――夫も眞實であつた――。

(茲にも私は私の不誠實を見附ける事が出來る。何の顧慮も無しに、たゞ一時の感激に任せて、あゝした手紙を書いたといふ事が、自分一人のみかIまでをも、苦しむ事のどん底まで苦しめて了つた。永久に消えぬ悔と悶へとを殘して了つた。私は心から自分の不誠實であつた事を、憎み且呪ふ。)

Iはその作物を見るやうにほんとうに柔しい人であつた。可成波瀾に富んだ過去を持ち乍ら、たしかに私よりは純な美しい感情に生きて居た。男の我儘と見得は強くとも、少くも不誠實では無かつたと思ふ。たゞ最後には矢張弱者であつた。夫に私は泣かされる。

Iが私の僅二三本の手紙にも直ぐ動かされて、戀といふ字を峯する程、感激し易い若々しい男だと知つた時、私の胸は妙に波立つた。一時の昂奮は消えて了つたけれど、其代り愛

に餓ゑた心と、もつと其男を能く知りたいといふ好奇の心と、漸次に濃くなつてきたなつかしみの心とで、ぐん／＼其方に動いて行つた。しかも私は思はせ振りな手紙のみ書いてなるべく何時までも遇ふまいとした。夫には遇ふて互の美しい幻影の、無慘に破れる事を悲しむ思も元より有つた。まだ／＼さうした邪の朧夜を往くやうな情調を、懐かしめるだけ懐かしみたいといふ、初心なこどもらしい願望もあつた。けれど――

私は斯うして遇はずに居れば、もつともつと男が熱く成つて來るといふ事を、いちばんに能く知つて居た私はIの感情を、又自分の感情を弄んで、密に喜んでゐたのである。少しでも自分が強者の位置に在る事を意識して、そして誇としてゐたのである。

ほんとうにさうである。遇ふまでは、たしかに私に強味が有つた。併し只一度遇つたその後は――常にIが強者であつた。私は私の靈も肉も、全てが男の手に握られて了つた事を知つた瞬間に、何とも言へぬ苦痛を感じた。そして男を憎む心持が微に發して來た事を感じた。又同時に、矛盾した幸福をもはつきりと意識した。

私がIに對して動き初めてから丁度二月目の、二月の十七日であつた。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

『豫期して來なかつたか』と言つた、Iの一言が、想ひ起す每に毒針のやうに銳く心を刺して、其度に私の頰は深い羞恥に新らしく燃える。

愛を囁いた男と二人で、世間に隱れて相遇ふたのである。『豫期して來なかつた』と誰が言へようぞ。さらば『豫期して來た』と答へ得るか。夫にしてはIの熱烈な抱擁を受けた時私は餘りに醜く周章てた私を見た。

（玆にも私の不誠實を認める事が出來る。私はたゞ唇を嚙んで冷たく泣く。）

（一度でも全てを許したといふ事實が、どれほどの强い力を以て男に結びつけたかといふ事をしみ〴〵考へる。）

Iには同棲してゐる女があつた。Iは『たゞ過去が二人を縛りつけてゐるのだ』と言つたさうした家庭の慘めな事をも苦悶しつゝ語つた。けれど、とにかく現在同棲しつゝ在るのである。其事實も私の苦痛と憎みとを濃くした。しかも私は男から離れ得なんだ。――といふよりも、寧ろ其爲にと私は言はう。その不思議な自分の感情に醉ひ乍ら、殆ど每日のや

うにＩに遇ひに行つたのである。たゞ遇つて、僅の時間を倶に歩み、倶に語るといふ、それだけの果敢ない逢ふ瀬に滿足して、そして遇ひに行つたのである。

若し、この私の一時の愧づべき昻奮から生れた、苦がい悲しい戀の記錄の中に、少しでも愛すべくなつかしい顏があるとすれば、夫はこの一月餘りの私の和かゝつた感情である苦痛と憎みに打克つて、熱いＩの愛に醉ふ事の出來た、幸福な私の其時分である。

たしかに私は幸福であつた……。

でも、斯うした淺い幸福が何時まで續くものであらうぞ。私は直ぐに苦しくなつた。直ぐに動搖して來た。Ｉも同じやうに苦しがつて來た。矢張り動搖して來た。二人はもつともつとしつかりした位置に立つて、もつともつと切實な、突き詰めた愛のうちに生きたいといふ、燃ゆるやうな慾望が、日に日に二人の胸に生長して來た事を、明らかに意識したのであつた。

そこで先づ二人は、私が私の家庭から、兩親の手から離れる事に苦心した。可成幾多の困難を經た後に、夫は奈何にか成功した。私は毎日いそ〳〵として、私一人の住むべき明るい家を求めて歩いた。丁度夫は四月の半の、花ぐもりの空のみ續く頃であつた。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は私達二人の住む家を求め得なんだ事を、涙ぐまれる程悲しく口惜しく思ふ。私の愛が最も純に燃えてゐた其頃は、夫でも甘んずる事が出來たであらう、けれど、遂には夫が破綻であつた。私は私の兩親から離れる事が出來た。IはIの女から離れる事が出來なんだ。事情が許さぬとIは斷言した。

（よし夫がどれほどの複雜な事情に絡まれてゐるにもせよ、事情は果して絕對的なものであるだらうか。私は今冷靜に之を考へたい。）

でもとにかく其頃の私は、Iを戀ふる心でいつぱいであつた、飽かず家を求めて歩いた。併しさうした場合にも尙我儘を棄て得なんだ私は、住む家に就ても餘りに多くの期待を抱いた爲に、何時までも何時までも求めて歩かねばならなんだ。十日と經ち、二十日と空しく暮す中に、私はだん／＼にいら／＼して來た。飽き易い、疲れ易い私の感情が、何時の間にか疲勞を覺えて來たのであつた。そしてじり／＼と人には言へぬ妙な腹立たしさに、冷たい涙を嚙み乍ら、寢られぬ夜が幾日も續いた。さういふ時、私はきつと考へた。

何故Iは I の女から離れる事が出來ないのであらう。何故せめても一緒に家を探してやらうとも言つて呉れないのであらう。

私はIとIの女に對する嫉妬をば、日に日にはつきりと意識して來た。同時にIの愛に醉ふ樂しさよりも、苦痛と憎みに惱む事の方が多くなつた。Iの女の事に就いて、私が屢Iに言つた言葉は、最初の間は冗談を多く含んだ輕い皮肉であつた。Iも私も微笑を以て應答してゐた。夫が漸次痛い皮肉に變つて行つた。二人とももう笑へなくなつた。私は私の言つた痛い皮肉が、自分の心をも烙くやうに苦しませた事を覺える。

其時である。

私は私の一人の子が危篤だといふ報知を受けた。

此世に唯一人の自分の子、夫は三年前に別れた男との、これも苦しかつた戀のかたみであつた。生れ乍らにして呪はれた運命を持つ哀れな子、母は有つても無い可哀想な子、其子が死に瀕して居ると聞いた刹那、私はたゞたゞ泣いて泣いた。直ぐにも飛んで行つて、その冷たい小さな軀を熱い涙で霑ほしてやりたい。頰に胸に火のやうなキスを與へて、新ら



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

しい生命に甦らせたい。斯う考へて、私は直ぐに出發しようとした。けれど――

私は遂に行かなんだ。

行つて、子といふ絆が私を昔の生活へ引戻す事を怖れた。Ｉと直ぐ離れる事を怖れた。

私は生命を削らるゝ如き苦惱と鬪ひつゝ、三日の間惱み伏した。そして少し落着いてから、Ｉに遇つた。遇つて打明けて、その熱い愛の手にさへ縋れば、この苦惱から、この悲痛から、全く救はれるといふ事を堅く信じて。

遇つた。語る私はひどく昂奮して居た。聽くＩはひどく冷靜だつた。私が昂奮すればする程、Ｉは反對に冷たくなつた。之がまた私の豫想して來た態度だらうか。私は口惜しさと憎さに溢れる涙をじつとこらへた。とうとう最後に私は斯う言つた。『行くも行かぬも貴方の言葉一つに任せる』と。しかも其時私は三日がゝりで決心した。『行かぬ』と言ふ覺悟を一層堅く心に誓ひ乍ら、なほ且さう言つたのである。と、Ｉは言下に、『母ならば、無論行くが至當だ』ときつぱり言つた。『では行きます』と私は答へた。そして二人は冷たく別れた。――

何の未練も無げに遠ざかる素氣ない後ろ影が、どれほど憎く思つた事だらう、私は賑か

な巷に、人目も愧ぢず血の涙を流した。

夫から三四時間の後、私は黑く流れる大川の畔の、薄暗い寺の塀に添ふて佇む私を見出でた。暴風雨の後のやうに亂れた胸が、搔裂いて摑み捨てゝも了ひたい程、じり〳〵と重苦しく惱ましかつた。私はじつと唇に血を滲ませ乍ら、戸の隙間洩る二階の燈を見詰めて居た。彼所にIが坐つて居る。强く冷やかに、宛然王者のやうな態度をとつて私と別れたIが、あの女と倶に坐つてゐる――。

斯う思つて、私はたゞおろ〳〵と泣いた。泣いて二階の燈を見詰めた。

知らぬ間に小雨が音も立てず降つて來た。涙のやうなその雨に濡れて、私はしほ〳〵と親の家へ歸つて行つた。二百里離れた田舍に病伏す小供の事など、殆ど心から消えて居た

この日程、Iを憎いと思つた事は無い。

この日程、Iを戀しいと思つた事も無い。

一夜を惱み明かした曉に、Iへ書いた手紙は、遂に戀ふる心に負けた私の眞情を訴へる苦しい告白であつた。ひねくれた私の我儘は夫を奈何に口惜しく思つたであらう。夫程にも弱くなつた、Iに負けた自分を、齒痒く憎んだ事であらう。でも私はIから離れ得なん

た。Ｉを戀ふて、私は殆ど熱狂して居た。死身になつて戀ひ戀ふて居た。

私は今死身になつて、熱狂して、と言つた。夫はたしかに眞實であつた。併し、その眞實は一面に於ての――といふ事も否めない。

（私は斯る場合に於てすら、不誠實であつた自分に對して、深い〳〵憎惡と羞恥を感ずる。さうして、斯る恥かしい事實を記さねばならぬあさましい哀れな自分を、泣くにも泣けぬ苦しみを以て眺めて居る。）夫はＩに對して大きな虚僞を持つてゐた、といふ事の爲である。

私はＩを欺いて居た。ほんとうに嘘を語つてゐた。今はもう自由な身として兩親の許に在る事を秘して、法律上には倘前の男のものであると告げた。そして、其事の爲に動搖するＩの感情の波を、不思議な興味と喜悅とで眺めて居た。

（ほんの氣紛れな、併し恥かしい不眞面目から生れた其いたづらが、どれほどの苦しい結果を見るやうに成つたかを思ふと、私は怖ろしさに戰慄する。）

Ｉは私に對しては强者であつた。けれど、Ｉは自身及び世間に對しては可成弱者であつた。法律といふ字が强く其心を嚇した事は、其日の言動に依つて一層明らかに裏書される。



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

（後にIが其日の態度に就て語つた時は、只私が一時でもI以外の事の爲に動搖して、Iを棄てゝ他に走らうとしたのを、戀に生きる女といふ事を忘れて、母としての情に生きようとしたのを、心から憎んだ爲である。とのみ語つた。其心持は私にも非常に嬉しいものとして肯かれる。けれど其他に、今言つた恐怖の心持もたしかに強く動いて居た事を私は信じる。Iも決して夫を否定するまいと信じる。）夫が私を苦しめた。自分の不誠實が、之程までに自分を悩ます事を知つて、苦痛の爲に悶へ泣いた。しかも卑怯な心は自分を憎むと供に、より以上にIを憎んだ。私はとにかく此世に只一人の子さへ捨てた。だのにIは王者のやうな強い冷たさを以て報いた。子の危篤といふ報知を受け乍ら、三日捨置いた私である。Iがたとへ行けと言へばとて、今更行き得るものであつたらうか。Iは何も彼も承知してゐる。如何なに一時動搖しようとも、決してIを棄て、戀を棄て、母としての情に生き得る私では無い。といふ事を、憎い程知り悉して居ながらも、尚冷靜に行けと命じた。その態度、その心持が憎くて〳〵たまらなかつたのである。

けれど私は戀ひしさに負けた。そして熱狂して手紙を書いた。夫程の手紙であつたものを、まだ私にはその虚僞を懺悔して、Iの宥しを請うだけの勇氣が無かつた。若くは誠實が無かつた。

（私はほんとうにIに對して自分の罪深い事を感じ、その贖ひの爲ならば、如何な侮蔑も苦痛も甘んじて受ける丈の覺悟をした。それだけの覺悟が出來た事を、如何なに喜んでゐるだらう。）

併し其頃の私はさうでは無い。意識しつゝ尙虛僞を懺悔する勇氣が無かつた。それ程弱い私は、それだけ尙强く苦悶したのである。二重に三重に私の心を讀みつけて、ぐいぐいと食ひ入る深刻な苦痛が、いくつもいくつもの重なり合つた惱みが、片時も私を落着かせては置かなんだ。私はせめて華かな明るい空氣に醉ふて、暫時なりとも苦しい自己を忘れようと努めた。そして每日每夜芝居や寄席の群集に交つた。併し夫が何程の慰藉を與へて吳れようぞ。私はたゞ空しい疲勞に、以前にも優る苦惱をいだいてうなだれた。

しかしIは、期待した以上に温かく再度私を迎へて吳れた。二人は矢張り二人だつた。『要するに、淙々と流れて居た水が一時淀んだものに過ぎぬ。元の流れにかへれば夫で何事も無いのだ』とIは言つた。私も夫を肯いた。幾日振りかでやつと笑へるやうな、和らかい心持に成れた事を感じて、しみ〴〵と更に新しくIに對する愛が湧いて來た。私はひ



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ごく昂奮した。今更のやうに愛を誓ふ、男の言葉を求めたりした。
『私は何も考へなくともよいのだ。たゞ男の抱擁のうちに生きてさへ行けば』
斯う幾度も私は心に囁いた。そして、その日から再度家を求めて出歩いた。日數を言へば僅十日餘りの事に過ぎぬけれど、眞實生命を削らるゝ苦しみに疲れた私は、この愛に依つて甦り得た事を切に〳〵感謝した。二人は矢張り二人だつたといふ事を、恍惚と嚙みしめるやうに味ひ乍ら、涙ぐんで喜んでゐた。こんどこそ、春は永遠に二人の上に輝くものと信じてゐた。

けれど、夫も唯一時の幻影に過ぎなんだ。一度淀んだ水はもう決して、元の通りに清んでは流れなんだ。
私はあの日から急に眼に見えて、Iが強味を見せて來た事に、直ぐ悩み初めたのである。私がもう片時もIを離れては生き能はぬと言ふ事を、此度の事件によつてはつきりと裏書された時、Iは私に絶對の服從を強いようとして、態度にも言葉にも露骨に夫を示して來た事に對し、私は直ぐ壓迫を感じ初めたのである。
男の我儘としては夫が至當であつたかも知れぬ。又所謂女らしい女ならば、當然の事と



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

して受けたかも知れぬ。しかし私には非常な苦痛であつた。まともには男の面も仰ぎ見させぬ重苦しい壓迫を受けて、私の心は殆ど本能的な反感に燃え立つて來た。反感は軈て一時眠つて居たIに對する憎みと嫉妬とを、更に烈しく強く喚起した。私はもう泣くにも泣けぬやうに成つた。Iを憎み、自分を憎み、以前に増した憎みの底に毎日もがいた。漸次Iに遇ふのを避けたくなつた。

でも時々は發作的に、熱狂的に、たまらなく遇ひたくなる事があつた。さうした時、遇ひに行けば、遇つてる中はたまらなくIが戀ひしくて、Iの爲とさへあらば、どんな犧牲にでも喜んで成らうと、不思議な程しほらしい感情にひたる事が出來た。そして自分と自分に感激して、顫へたり涙を流したりした。しかも別れて了へば、矢張り元の荒んだ感情に苦しみもがいて、咀はしい夜晝を送らねばならなかつた。

私はすつかり疲れ切つて了つた。

『何故私は、私達二人の爲の家を求める事が出來ないのであらう』

疲れ切つた頭腦で繰返し〳〵考へたのが之であつた。

全く二人で生きる事の爲ならば、まだ私にもどんな苦痛にも打克つだけの覺悟はあつたと、私は眞實の心を以て斷言し得る。けれどIは他の家庭の人であつた。

Iは言ふ。

『たゞ三年の後を待て』と。

亦、言ふ。

『彼女は將來の生活に對する安定さへ與へれば、夫に滿足して直ぐ離れて行く女である。しかも現在の自分としては、滿足する丈の十分な保證を與へる力を持たぬ。玆に三年という時間に俟たねばならぬ必要が生じる。そして二人は其日まで慘めな生活を續けねばならぬのである』と。

これがIの謂ふ『許さぬ事情』であつた。

私はもう一度重ねて考へたい。『事情とは、果して絕對的なもので有らうか』といふ事を——。

ほんとうにそこには些かの妥協も許されぬものであらうか。

私はIの誠實を疑ひたくはない。夫を全で男の見得に歸して了ひたい。夫にしても何故

Iは『お互の未練の爲に』と藏まず語る事をしなかつたのであらう。

私は私が只一つ此事に就て、Iを責め得る强味を持つと信じて居る。

私はほんとうに疲れて了つた。奈何にもあがきの附かぬどん底まで落ちて、苦しむ事にまで疲れて了つた。私はもう家を求める事もせず、遇ひに行く事もせず、うつらうつらと病み伏して居た。餘りに堪へ兼ぬる其時は、愚な自分を嘲り乍ら、後の悔と惱みを意識し乍ら、なほも一時の刺戟を求めて、再度華かな群集の裡に逃れた。

斯うして、逢ひもせず、手紙も書かぬ日が十日續いた。私は一人が苦しんで居るものとのみ考へて居た。あれ程私を壓迫してゐた强者のIに、同じ苦惱が有らうなどとは、夢にも思ひ及ばなんだ事である。或時はIを思ふて憎さに泣いた。或時はIを思ふて戀しさに泣いた。矛盾した二つの思が間斷無しに私を責めた。しかも私の胸裡に映るIの面影は、常に王者の衿持と强さに冷たく微笑して居たのである。

『奈何にでも成れ』

最後に玆まで行詰まつて、私はもう泣かなんだ。そして落着てあの手紙を受ける事が出



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

來た。それだのに――

（私はもう一度繰返す。）

讀んで私は狂ほしいまでに身を責めて泣いた。ありたけの涙を血を絞つて泣いた。初めて知つた自分より以上の切實な、深刻な、Iの苦惱に、奈何謝罪したらよからうか、奈何感謝したらよからうか、奈何自分を處置したらよからうか、と、物狂ほしくもがいた。

そして私はやつと目が覺めた。自分の醜さを明らかに知る事が出來た。私は私の目覺めたるをほんとうに喜ぶ。Iの愛に依りて救はれたるを、眞實の心を以て感謝する。

苦しい戀から脱れて、友としての愛に生きようといふ。人は『卑怯な妥協』として、その弱さを冷笑するかも知れぬ。しかも私はその弱さ故に、なほ一層Iのなつかしい事を思ふ何故なれば――

若しIが最後まで强者であつたならば、決して『卑怯な妥協』へ脱れようとは考へなんだであらう。きつと少しの未練も無しに私を棄てゝ、斯かる煮切らぬ苦痛に煩はされる事

を避けたであらう。随つて私もこの『救はれたる歡喜』を味ふ事を得ずに、何時までも醜い自己に執着して、慘めな生活を續けて行つた事であらう。

斯う考へて來て、私はしみ〴〵Iに感謝した。自分の罪深さを省みては、この贖ひの爲なれば、身も心も投げ出してゞも、Iの爲の幸福を求めねばならぬと、堅く決心した。その時、ふと私はこれまでに覺えぬ。ほの〴〵と温かい新らしい愛が、幽に心の底に萠え初めて來た事を感じた。

私は今はつきりと、自分が精神上の或不具者であつた事を思ふ。戀を戀する事しか出來ぬ、哀れな女であつた事を思ふ。

私の戀の悲劇の根は、常に其處から生じたのではあるまいか。

（私は如何なる場合にも除き去る能はぬ、二つの刻みつけられた傷を、心の底の底に抱いてゐる。）

一つは私が『こゝのつの頃』といふ追憶に書いた、秀雄と假に呼ぶ傷である。丁度私が女になつた十五の春、ふとその昔の記憶が新らしく甦つた。私は不思議にその記憶に惹き附



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

けられた、たゞさめぐと泣いた事を覺えてゐる。そして其日から私の心にその俤が刻まれた。過へば過はれる人を故意と避けつゝ――或は私の記憶は空想が生んだ夢であるかも知れぬ。けれど夢としては、餘りに明るく鮮かだつた。

も一つは、其少し以前から知つた、Kと呼ぶ人の俤である。Kは舞臺に生きる人であつた。そして今も尙舞臺に生きて居る。私はそのKの持つてゐる、しみぐと胸に食ひ入るやうな、人間の純な淚が何時も何處かに滲んでゐる、突きつめた藝の力に魅せられて、つい倶に泣き倶に笑ひ、何も彼も忘れて舞臺の情調に同化して了ふのが常だつた。それ程私はKに惹き附けられてゐた。十餘年前の其頃から今日まで、少しも變はる事無しに。

私はこのKに對する心の動き方を、戀であるとは斷言し得ぬ。又、戀で無いとも斷言し能はぬ。たゞ私は、舞臺以外のKに對しては殆ど何の要求も感せず、時折逢ふて語るといふ、夫だけに十分滿足して來たのであつた。決してより以上近づかうとは考へもしなかつた事である

（しかし、心の底の俤は、常に温かく抱かれて居た。）

私は奈何しても、純眞な戀をする事の出來ぬ、哀れな不具者である事を自覺した。徒らに人をも自分をも惱まし苦しめるばかりの戀は、全く私の心から棄て去らう。もう決して再度戀といふ事は思ふまいと、堅く〳〵自分に誓つた。眞實に誓つた。

永遠に戀を棄て、永遠に戀から棄てられた女の寂しさ。私は今眞の孤獨の寂寥を知り得る――。

あの事のあつてから、友としてのIと初めて相見た時、私は一層その感を深くした。私は二人の間に急に遠い〳〵距離を生じたことを、しみ〴〵とした思で眺めやつた。ふと話の途切れる時など、私はしみ〴〵とIの横顔に見入つた。けれど、さうした寂寥の中を流れる安らかさが、ともすれば涙ぐまれる眼を和らかく拭ふて呉れる事もあつた。『二人は友としての溫かい愛の中に、永久に助け合つてたゞ樂しく、苦しむ事無しに生きて行かう』と誓ふやうに語り交はした。そして只何事も無く、これまでのやうに別れて歸つた。私は感謝と懺悔を持つて行つた筈である。だのに其事に就いては何事をも語り得ず、空しく別れて歸つて來た。

何處まで卑怯者であらう、打ち附けにIに面しては、妙な羞恥が口を開かせなんだ。不



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

思議な未練が躊躇させた。夫を私は重ねて愧ぢる。そして別れた其夜から、語り得ぬ懺悔を懺悔したい、抑へ切れぬ眞實心に責められて、戰き乍ら書き初めたのである。――

茲まで書いて來て、ふと私は或る强い恐怖に襲はれた。

Iは私がこれ程にも、醜いあさましい女と知らなんだ爲に、『卑怯な妥協』にも甘んじようとしたのであらう。すれば夫を悉く知り得た曉にも、なほ以前と變らぬ心持で接して呉れる事が出來るであらうか。

萬一――さう考へて、私はほんとに堪らなくなつた。泣いても泣いても涙が込上げて、私はじつと唇を嚙み乍ら突伏した。

しかし、夫も皆自分から求めた報ひである私はどんな答をも受けねばならぬ。

或は眞實に最後であつたかも知れぬ、その日のIの俤をしつかりと抱きつゝ、私は、微にこの恐怖を意識して、『若し、友といふ事にさへも堪へられなくなつたなら』と、そつとIを仰ぎ見て自分を想ひ起してゐる。『――私は大丈夫だけれど』と、强く呟くやうに繰返

した自分をも想ひ起して居る――。

私はたゞ私を泣いて遣りたい。

私は今疲勞の極に在る。一週間に渉る高度の發熱と、絶えざる苦惱とに、めちや〳〵に昏亂した頭腦は、到底冷靜に物を考へ、夫を纒める餘裕を持たなんだ。しかも私は書かねば成らぬ。苦しみつゝ、昂奮しつゝ、夜も晝も机に對つた。五日かゝつてやつとこれだけの物を書上げた時、私はもう物も言へなんだ。幾度危く昏倒しようとした事だらう。私はほんとに私の血を以て之を書いた事を思ふ。

その惱みの深かつたそれだけに、懺悔の後の疲れた心に、さびしい、けれど懷かしい、しみ〴〵とした平安が訪れて來た。そして夫と倶に、ほの〴〵萠え初めた新らしい愛が、漸次濃く深く根を下して來た。

この美しい愛の心。

今まで私の知らなんだ、純な温かい愛のこころ。何卒この愛の温かさを以て、Iをしつかりと抱擁したい。何卒この愛の力を以て、Iを少しでも幸福に導きたい。——夫が私の生きる唯一の途である。

ほんとうに私は、私の此後をして、只この愛を生長させて行く事にのみ、あらゆる力を盡さねばならぬ——。

（四、六、十三）

（眞實の心より、この懺悔をIに捧ぐ。）

大分落着を得て來た心で、再度讀返して見た時、私は私があまり昂奮したゝめに、ひどくしどろもどろな、矛盾したやうな、物の言方をした事に氣附いた。いつそ書直してとも思つたけれど、亦思ひ直して其儘にする。——とにかく、それが其折の『眞實の心』であつた故である。

私は、私がほんとうに心の平靜を得た折、もう一度之を書いて見たいと、切に切に希ふて居る。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

# 斷章

齋賀琴

金色の光うすれて
又やみは海をおそふ
遠山は波間に消えて
打そよぐ風もさびし
海ぞひを今日も行けば
わがかげの砂上にしみぬ

忘れ得ぬ戀人よ
火と燃えにし功名の思ひよ
つかの間の夢はさめて
今は只、只獨り世を偲ぶ
これやこの若きうれひ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

鬱憂の心重く
たど〱と砂上を行けば
あはれ夜はおごそかに
おごそかに我に迫る

∴

はる〱と海をこえて
ひとりすむこの島
椰子の風すゞしき岩に
やすらひてものをぞ思ふ

るり色の空のかなた
椿咲くふるさとよ
ほとゝぎす啼く山里よ
いとしきわが子はいかに

國を出でてすでに三とせ
わが病未だいえず
最愛しきわが子はいかに
波高く海鳥啼けば
わが袖も潮に濡れぬ

戀人よ、いとをしき戀人よ
君はいづこ、わが魂は
只せちに君をこそ呼べ

はれやかに笑みたまひて
わが方を見たまへ
春の夜の淡き憂に
涙含むわれを見給へ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

# 處女作—千原代志

翌る日は日曜日だつた。

客分のYさんを除いて、ボイドさんの家の誰彼は皆、教會の日曜學校のために八時半から出かけてしまつた。寢坊したYさんは九時過に床をはなれて十時の禮拜に間にあふ樣に仕度してゐると、突然留守居の小母さんの取つぎで、M牧師の來訪を告げられた、Yさんは一寸驚いた。大急ぎで袴を着けながら、部屋に通す樣に小母さんに言つた。

外面的な挨拶をすませて火鉢を中に對座した時Yさんは、來訪の意味をたづねる樣に牧師の顔を眺めた。牧師は躊躇もなしに「是非お相談したいことがあつて來ました。」と前置して、それでもそれから先は口ごもりがちに、

「妻が氣をわるくしましてね。」

「えゝ？奥樣が、それはお氣の毒でござひましたのね。」

「昨日蘆の浦へ行つたのを、「Yさんと一緒でせう」つて言ふから、虚言は言はれないので「えゝ」つて言つたもんですからね。」



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

牧師の言ひ方と、そのしほれた樣子が可笑しくつてYさんは思はず笑ひながら。

「さうですか、それがどうしたと仰有るのでせう、私は誰にもあなたと一緒に參つたなどとは申して居りません。」

「だつてさうたづねられて、まさか虚言は言はれませんしね。」

「それや勿論ですわね。それで奥さんが大變斜なんですか。」

「えゝ僕はすつかり決心したんです、昨日あなたに申上る筈だつたんでした、僕はもう我慢が出來なくなりました、別府へ行かうとおもひます、別府には僕の伯母が待合を開いて居ります。あの土地では可成にやつて居ります、それに仲々解つた女ですからいゝ樣にして吳れるでせう、でなくば熊本にも矢張親戚で藥種問屋をやつてるのもあります。どちらだつて必さうまく計らつて吳れませう、一時さうするのが一番いゝ方法だと思ひます、別府だつてこれからは實にいゝとこですよ、それであなたの御意向を承りに來ました。あなたもいろ〳〵御考や御都合がおありでせうから、明晩までに手答を、それとも御意向を定めて置いて下さい。」

「あゝ先生一寸お待ち下さいまし、明日迄など申上なくとも私にも決心がございます。」

「では一緒に行つて吳れますか。」



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「……………………。」
「さう決心して頂ければ、僕は直ぐ決行する迄です。」
「私にはそれは出來ません。」
「出來ません？じやどうなさらうつてんですか、成行に任せますか。」
「………　……………。」
「あなたはそれでいゝかも知れませんが、私の立場としてそれは出來ません、到底不可能です、どうか將へ直して下さい、明晩迄に。」
「私の決心はたゞ一つなんでございます私はあなたを知らなかつたと思ひませう、精神の收者として人々から信用のあつい あなたをして少くもそれ程迄に動搖おさせ申し、何の理解もない、恁う申しては失禮ですが、お氣の毒な奥樣に迄そんな御苦痛をお與へしたことは、私として懺愧に堪えられません。私は私の道を行きます、先生もどうかお心をお鎭め遊ばしてもと〳〵ごほり奥樣を御勞りになつて教會のために御つくしなさひまし。」空涙ならぬ雫が彼女の頰を傳ふてはら〳〵と膝の上に落ちた。
「…… ……、あなたの御決心はそれですか、僕は…………僕は今が今迄さうとばかりは思ひませんでした、今更僕として…………。」



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「これほど儘ならぬものとは思ひも寄りませんでした、私は決して再び先生の御心に煩を殘す事は致しません、決して。」

「あなたはそんなにお考へになる事が出來ますか、僕は今あなたと別れたとて、僕の苦痛は永久に…………。」

「私が××へ歸つちまへばそれまでじやございませんか、それに私はまだ、遼遠な前途を有つて居ります。お互の爲にはどうしても一時の感情を犧牲にしなければなりません。」

「ご最もです、前途あるあなたをして犧牲を强いるに忍びません、お構ひなくあなたの道をお進み下さい、僕も蔭ながらあなたの御成功を祈ります。」

「有難うございます、私もこんなことにならうとは思ひもかけませんでした、ではどうぞ惡く思召さないで下さいまし。」

「何の少しも惡くなど思ひは致しません、時間も迫つて來ました、僕は一足先に失敬します。」

銷然として去る牧師の後姿を玄關に見送つたYさんは、部屋に歸つて倒れる樣に机に突伏すと暫く身動もしなかつた。軈て抽斗から昨日彼から受取つた、手紙を取り出して今一度讀み反した。直に平靜に歸ると靜に起つて、敎會に途をいそいだ。



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

敎會は萬事例日の通りだつた。信者等も例日の通り眞面目だつた。若い技師の夫婦も例日の通り睦しさうだつた。恐らく此數日來に醸された出來事を知るものとては牧師とYさんとより外無かつたらう。牧師の夫人は此日出席しなかつた。例によつてヒステリー症でふて寢をしたのださは後になつて分明した事實だつた。無知な信者や鈍感な敎會員等の熱心さと、内におそるべき反逆をつゝむ若き牧者の、殊勝氣な態度との對照は、Yさんにとつてはあまりに露はに過ぎて解き難い謎であつた。寧ろ解き難い人世の解剖圖の樣でもあつた。現代の曖昧極る精神上の要求、靈の銷沈と墮落と妥協、見えざる神に賴るもよし、醜は成る可く見ざる樣、見ても見ぬ振をして、自己の本心を迄僞つて、くだらぬ遊戲に安心の道を得やうなどゝあせる衆俗の慘めさ。

人世に、絕體善もなければ、勿論絕體惡もない。善惡の差別を審判する權威者が何處にある。そして罪惡から解き放つて、よく救ひ得るものが何處にある。形式的な祈禱や禮拜や讃美歌の間、Yさんの頭には絕えずこんな懷疑や冷嘲が往來しながら牧師の一擧一動をも尙見遁さなかつた。

牧師は說敎をなすべく聖座の正面の位置に立つた。憂鬱な顏、とりすましたわざとらしい態度、内に胚胎する危險極まる思想、衆人の眼は今や語り出さうとする牧師の顏に集つ



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

た。きつと凝視したYさんの眼がはからずも牧師の眼とかちあつた。牧師の唇には微かな笑が漂ふた。Yさんの唇にも冷笑が漂つた、しかしこんな微妙な點に迄誰も氣附くものはなかつた。

孤獨の人、觀照の人、氣無性な我儘な思索家、可危しい喬答摩の追隨者！彼女は他の聽衆と異なつた意味で、彼の說き出すところに聽き耳を立てた。

* * * *

「視よ作夢者來る」と、(創世記三十七章十九節)彼ヨセフは容貌美しく、ことに父イスラエルの老後の子であれば、父の愛はいたくも他の十一人の異母兄等の誰にも勝りて彼に注がれたのであります。イスラエルは彼にのみ色彩豐麗な紅の衣を製つて着せました。これらの事は自から十一の兄等の心を快しとしませんでした。かてゝ加へて今一つ無智な兄等の嫉妬を煽るものがありました。

生れつき性怜しきヨセフは、夢によつて豫言する靈能を享受しました。即此事は十一の異母兄の嫉視を買ふ大原因の一となりました。しかも彼のこの靈能は彼をしてその一生涯を織りなす波瀾重疊の經緯とはなつたのであります。

彼の兄等は、「彼を惡み、彼に向つて穩和に物言ふことを得せざりき。」(三十七章四節。)



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

とあります。彼がまだ、カナンの父の下にあつて、その兄弟とともに、羊を牧つて居る頃、一日夢を見て兄弟に告げました。

「我畠の中に一つの禾束を結び置きしに、わが禾束起き且立てり。汝等の束禾環り伏して拜せり」と、この夢と言とは兄等の妬みと憎惡とを益々募らせました。又或時、

「月と日と十一の星、我を拜せり」と、之には父イスラエルすらも驚き戒めました。

「我と汝の母と汝の兄弟、實にゆきて地に鞠み汝を拜するに到らんや。」と、

ヨセフは父より遣はされて、その十一の兄弟が羊を牧ひ居れるシケムの谷に往き、兄弟等が既に其處に居らざるを見て、ドタン迄追ひ往きて、漸くその兄弟に會ふ事を得ました。

「視よ作夢者來る。」これがこの時兄弟相かへりみて、耳語いた嫉妬と嘲笑の言であります。

彼等はヨセフを捕へて穽に投げ入れ、猛獸に喰はれて死んだ樣によそほはんと議し合ひました。彼は特に父より着せられた彩れる衣を剝ぎ取られて穽に投げ入れられました。幸に穽には水が溜つて居りませんでした。茲に兄弟の中ルベンのみは彼を殺す事を憫み、水なき事を知つてひそかに救ひ出さんとしましたが、又兄弟の中或者の發議によつて再穽より引出され、折から通りかゝつた、イシマエルの商人に賣り渡されたのであります。即ヨセフの身は銀二十枚に代へられて、奴隸となるべく、イシマエル人ミデアンの旅商に携へら



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

れ、幾日かを駱駝の脊の上に、香物乳香沒薬などゝ共に運ばれて、軈てエジプトに着きエジプト王パロの侍衛の長ポテパルの奴隷に賣られました。

いま〳〵しきヨセフを退けてしかも思はぬ銀を得一擧にして兩得せし十一の兄弟等は、形見の採れる衣をとり、牡山羊の子を屠り、その血を塗りつけて、父イスラエルのもとに到り、汝の最愛の子ヨセフはかくして猛獸の餌食となつたのだと、まことしやかに告げました。父の嘆き哭く樣は眼もあてられず喪を表すに「その表を裂き麻布を腰にまとひ、久しくその子のためになげけり。」(三十七章三十四節)とあります。

然るにポテパルの家にあるヨセフは如何といふに、彼はエホバに愛せられて、其祝福を受け「エホバ常に彼と共にあり」亨通者(さかゆるもの)となりました。ヨセフの容麗、人才はポテパルの寵と信を得て、軈て近待に進み遂に家宰にまで擧げられました。美しく年弱き彼の手には、ポテパル家の全財産が托せられたのであります。此時よりして、エホバの祝福はヨセフのみならず、このエジプト人の家に迄及んで榮えにさかえたと書いてあります。

かゝる時にこそ得て誘惑は現はるゝもので、玆に主人ポテパルの妻、ヨセフの優容に想をかけて日々に言ひ寄つて止みませんでした誘惑は日毎に猛烈でしたがヨセフは斷乎として斥けました。遂に淫猥なる彼女の怨を得て、主人ポテパルに讒訴せられました。この模



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

様はバイブルの方に委しく載つて居ります。ヨセフに對するホテパルの信と愛があつかつただけそれ丈、その怒りは猛烈でありました。直ちにヨセフは捕へられて獄に投せられました。けどもヱホバのめぐみは尚ヨセフの上にありました。ヨセフの温柔は獄卒の同情と信用あつく遂に典獄として獄中の囚人は悉く彼の手に委ねしめられました。

其後の或時パロ王の酒人と膳夫罪を犯して侍衛の臣ポテパルが獄に、ヨセフ等とともに繋がれました。一朝酒人と膳夫は各々その昨夜見し夢について物憂に沈むで居るのを見たヨセフは、之を解き明しました。（中略）（創世紀四十章七節以下を視よ）

ヨセフの夢判斷は適中いたしました、そのためにこそ酒人の長は生命を全うして、以前の職にかへつたのでしたが彼はヨセフとの約束を忘れて、ヨセフの寃をパロにつげ、ゆるしを乞ふ事をしてやりませんでした。

二年の後パロ夢視る事あり。（四十一章）エジプトの法術士と博士と雖も流石にパロ王の此不思議なる夢を解くに由ありませんでした。この時始めて、ヨセフは酒人の長に思ひ出でられて、王の夢を解き、七年に亘るの豐年に續いて來る七年の饑饉を豫言して此時年三十にして既にエジプト全國の宰に任せられ、名もザフナテパネアと改めオンの祭司ポテパルの女アセナテを妻とし、身を以て國家の財政にあたり、その國難に備へしめひいてその



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

彼を陷れし十人の兄弟の糧を需めんため遙々故國より來るにあひ之を救ひ、終に[illegible]父イスラエルにも會ひ互に抱擁して幸福な生活に入るのであります。(中略)彼の生涯は實に波瀾極りなきものであります。幼なくしてヘブルなる父の家をはなれ、遠くエジプトに奴隷として賣られたのが、却つて身をたて、家を起す基となつたのです彼自身でも言つて居ります。神汝等の後を地につたへんため、又大なる救をもて汝の生命を救はんために我を汝等の先に遣はしたまへり。」(四十五章七節)

有爲天變とも言ひ、人間萬事塞翁が馬とも申します。ヨセフの生涯にも之を表すものがあります。然るに彼ヨセフは如何なる境遇に身を委ぬるも、その內に終始一貫する、堅固なる信念は常に失ひませんでした。例へば奴隷に賣られた場合にも彼は神の攝理を信じて些も怨みませんでした。勿論德は自身にありと言ひながら、家宰にまで擧げられ而して主人の美しき妻の誘惑があつたにも拘はらず、斷然之を斥けました。そのために再び獄屋の生活までする事になりました。しかし神は知り給ふ、彼遂にその使命を全うするを得ました。ヨセフは幼なくしてその父母をはなれ異邦に漂らふた。現代の若き男女の中にも志を立て丶家を出づるものが多くあります、甚しきはその父母や兄弟の讃同を得ずして、之に反抗してまで、故鄉を後に家を出づるものが頻々としてあると聞きます。之は止むを得ざ



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

る時代の要求だらうと思ひます。ヨセフの家出と漂ひと、結局おなじ意味です。たゞ一時如何なる境遇に遭遇するとも、一貫する自己の信念の上に、萬難を排して進むだけの勇氣と覺悟が必要であります。

牧師の說教は右の樣であつた。始めは面白く聽いたが、終りの落で皆は烟に卷かれた氣味で呆然した。Yさんだけには少くも了解された。彼女の唇から苦い冷笑が洩れた。

――(續　く)――



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

# 幕間になる迄—

岡田ゆき

人物

直也　青年作家
晴江　直也の妻
清子　直也の戀人
勝子　清子の友
其他劇場案内女など

現代　初夏の夜

ある劇場の廣場

舞臺正面は鎖されたる、ボックスの後を見せ極く右手にオリーブ色の扉の出入口がある。やゝ左寄りに石の低い階段があつて、小砂利の敷いてある廣場へ來るやうになつてゐる。その出口を中に右と左に、開けられた、大きなガラス窓が並んで、そこから廊下の電燈が光りを薄く投げて居る。廣場の右手、窓下よりやゝ離れた所にベンチが一つある。

幕が開くと、今、場内では演劇中の心にて、時々とぎれ〳〵に臺詞が聞える他、廊下はひつそりと靜まりかへつて、居て、時たま案内女が用ありげに、徃つたり、來たりする。

やがて、清子、(二十二三位。面長な



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

美しい容貌。中肉中丈。髪は上品な束髪に、翡翠の大きな簪を無造作にさしたきり、何の髪飾もない。華美な御召の袷に、帯は、黑地に金と銀で色紙を散らし刺繍にしたのをしめて、白金の細い鎖を首からかけてゐる。)オリーヴ色の扉より、小さな、扇を胸の所で、輕く動かしながら、靜かに登場。清子に續いて、勝子、(二十位。容貌はそれ程美しい方ではないが、何んとなく、人を魅する處がある。髪は、根下りに、大きく束髪に結ひ、眞紅のビロードの芥子の花を、三輪左の後方にさしてゐる。大柄な縞御召の袷に、白茶の厚板の帯をしめて居る。左の手に金の腕時計をしてゐる。笑ふ時、指で突いた様に靨がいる。)が出て來る。

勝子。(廣場へ出る階段の處迄來る。)清子さん、少し、出ませうか。

清子。え、さうしませう。(右手を勝子の肩に置きながら、階段を下りて、廣場へ出て來る。

勝子。清子さん何をそんなに考へていらつしやるの。今夜は考へるために此處へ來たのでせうか。私はお芝居を見に來た心算よ。(始終口元に微笑が漂ふ。)

清子。眞實に勝さんにはすまないわ。けれど、私、まさか、彼が來様とは、思

はなかつたのよ。さつきから、彼の目は、舞臺に、向いてやしないのですもの。私だつてぢつとしてゐられなくなつたの。

勝子。おかしいのね。今夜はいつもの貴女ぢやない様な事をおつしやるわ。

清子。え、私どうかしてゐるわ。(廊下の電燈が横顔を照らす。)もう私はすつかり、彼の事は忘れる筈なのに。そしてあの時あれ程徹底して、考へた心算だつたのに。(獨語の樣に云ふ。)ねえ、勝子さん、私は今、見たあのヴエアトリッチエの樣に、刹那的の戀を、もてあそぶ女ぢやないのでせうかね。

勝子。オホヽヽヽ、そんな馬鹿な事があるもんですか。貴女は直也さんと、お別れなさる時に私に何んておつしやつて。私はもうこんなに、つきつめて考へたのだ。そして是れ以上、自分が行ふ事も考へる事もない程、徹底してから別れる事になつたのよつてねえ。

貴女だつて未だ覺えていらつしやるでせう。それだのに今になつて、動搖する貴女の氣が知れないわ。徹底したとおつしやりながら貴女はやつぱり嘘なのね。と私は云ひたくなりますよ。(ぢつと清子を見る。)

清子。眞實に貴女のおつしやる通りですわ



Digitized by Google	Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

（云ひながらベンチに腰を下す。）私は只徹底した、心算に過ぎなかつたのよ。未だどうにかする事が出來たに相違ないのだわ。勝子さん、私胸が妙な氣持ちになつて來ましたわ。

（袖で胸をおさへる。）

勝子。（空を仰いで。）清子さん、お星樣が貴女を笑つて居てよ。大きな御なりをして何ですつて。オホ、、、。

清子。（誘はれた樣にニイーッと笑ふ。）貴女は超人だわね。何んでも超絶する事がお出來なさるのよ。

勝子。恐らく他人の事だから、澄ましてゐられるのよ、人間は皆、自分以外の事は眞劍になつて考へないものですわ。でもねえ、（眞顏になつて。）彼の方の心を貴女に再びかへす事は、たやすく出來ると思ふわ。

清子。さう、どうして。

勝子。だつて貴女、直也さんの、愛は貴女にあつたのに、彼の周圍のために、やむなく、結婚をなすつたんでせう そして貴女がお別れになつたのも、その結婚のためなのですもの。きつと、直也さんは貴女にかへつてゐらつしやるわ。貴女達お二人はもと〳〵離れるべきものぢやないと、第三者の私でさへ思ふ程の力強い愛で結ばれてゐたのですもの。

清子。（何か思ひ出した樣に。）勝子さん少

し私一人で居たいわ。静かに静かに考へたいのです。未だなか／＼幕ぢやないでせうから、見ていらつしやいな。

　此の時場内に拍手おこる。

勝子。さう、それぢや、私、見て來ますわ貴女、お好きになすつていらつしやいね。(場内に入つて行く。)

清子。(輕く吐息して、ベンチの後へ寄りかゝり、顔を袖で掩ふ。)

何處からともなく、忽然として心の影、(頭より爪先まで闇黑色の衣服で掩はれた、瘦せて高き者。右手に血の滴の樣な色の薔薇の花を一輪持つて居る。)が現はれる。

心の影。(あたかも、風にもてあそばれる木の葉の樣に翩々として舞ひながら。)

静かなる戀心、
いまし目さむ、
愛のさゝやき、
汝もきけ、汝もきけ、
あら面白の女心、
あら面白の女心、(異樣の節にて歌ふ。)

清子。(驚いて立ち上り、又目を瞠りながら静かに腰を下す。)まあ、お前は誰れなの。

心の影。(清子の言葉に頓着なく、尚も舞ひ且つ歌ふ。)

眞紅なる戀心、

再び生れ來ぬ、
燃ゆる思ひを、
汝もきけ、汝もきけ、
あらおかし女心、
あらおかし女心。

うるはしき戀心、
再び君にさゝぐ、
血のしたゝりを、
汝もきけ、汝もきけ、
あら優し女心、
あら優し女心。(歌ひ終りて夜の扉に吸ひ込まれる樣に、引込む。)

清子。(目さめた樣に立ち上り。)私は夢をみて居たのかしら。いえ、眠つてゐたのぢやない。(忽ち思ひあたつた樣に。)おう、さうだ。あれは私の心の影に相違ない。私の心に再び目さめた愛のさゝやき。それを幻に見たのであつた。………。(空を仰いで。)星は冷く瞬いてゐる。あの星の光を私は感ずるけれど、光が此處に屆いた今、その星の存在は解らないと云ふことを私は聞いた。おうそれも彼から聞いたのであつた。私の心は彼の手にかへらうとしていら／＼して居る。しかも私の心の一隅では親の反對世間の嘲笑などに、びく、びくしてゐる。私の愛はそんな事に氣兼してはならない。世間が氣になつたり、親



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

が恐ろしくて何にならう。此の胸に燃ゆる思ひが强ければ。此の戀にをどる心の波が高ければ、そして私の靈が何處迄も眞實であればそれで好いのではあるまひか。あゝ直也さん直也さん。(ぢつと足元に目を落す。)

舞臺は靜かで、場内よりとぎれ／＼に臺詞がもれて來る。清子はやゝ暫く働かずに立つて居る。

直也、(二十八九位、頭髮を中央から分けてゐるのが、黑ビロードの様に見える。容貌は色白く、目は落ちついた輝を持つてゐる。全體きちんとして居る青年。薄茶色の背廣を著てゐる。)がオリーヴ色の扉より登場。

直也。(何か探し求める様で、つか／＼と廣場へ出て來て、清子を凝視する。)

清子。(何心なく面を上げた時、佇立する直也が目に入つたのでハッとする。)まあ貴方出ておいでになつたのね。

直也。僕はぢつとして舞臺なんか見て居られやしない。貴女に話す事があるのです。

清子。(默してゐる。)

直也。僕は再び貴女にかへつたのです。貴女なしには生きられないのです。清さん何とか答へて呉れ給へ。

清子。(ぐつたり腰を下す。)けれど貴方は今、奥様がお有りではありませんか



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は駄目よ。眞實に駄目ですわ。

直也。僕は貴女と別れてから……さうだ去年の春以來、始終自分をあざむいて暮して來たのです。どんな事があらうとも、僕等は堪えて行かねばならなかつたのです。兩親の不同意位で別れてしまふべき二人ぢやないんだ。清さん、もう一度僕の胸にかへつて與れませんか。(清子の肩に手をかける。)

清子。私達はどうすれば好いのでせう。直也さんあんな美しい奥様をお持ちなすつたのに。

直也。彼女は美しいかも知れない。然し、僕にとつて、豚に眞珠を與へたと同じ事なんです。愛のない泥人形の樣な女と同棲して居たのは眞の自分ぢやない。世間を憚かる心がさせたのです。たとへ短い月日とは云へ、よく貴女に逢はないで居られたものだ僕等はもつと、もつと強くならねばならない。

清子。(直也の手を取る。)眞實ですか。直也さん。

直也。え、僕は貴女の氣のすむ樣にします二人を世間が入れなければ、何處へでも行きませう。此處ばかりに日は照りやしない。よく清さん考へて與れ給へ。

清子。私の心は燃えてます。直さん、忘れ

ないで頂戴よ。貴方と一所なら何處へでも行きますわ。

直也。ありがたう。(清子の手に接吻する。)

清子。私は何だか夢をみて居る樣な氣がします。未だ幕はしまつたのぢやないのでせう。誰れか來るといやですわ。

直也。貴女は未だ他人が恐ろしいのですか眞の愛を握つて居る二人は誰れの前に出たつて耻ぢない筈ですよ。

清子。さうねえ。誰れが來てもかまはない筈ですね。(微笑する。)

直也。(輕く笑ふ。)

案内女二三人、美麗な花環と花束を持つて廊下を通る。

清子。これから、私達はどうしませう。

直也。僕は今の生活を打ち毀して、新らしく貴女と同棲する考へだから、少し待つて居て吳れ給へ。二人は始めから、さうならねばならなかつたのだ。

清子。でもさう出來るでせうか。

直也。僕を信じて、待つてゝ下さい。

清子。貴女さへその御心なら私はいつ迄でも待つて居ますわ。

直也。どうかさうして吳れ給へ。二三日內にゆつくり逢つて話したいがなあ。

清子。場所と時間さへ知らして下されば、私どうにか都合しますわ。

直也。それぢや必ず知らせるから。

清子。えゝ、きつとよ。

此の時、場內に一時に拍手おこる。

直也。もう幕だとみえる。ぢや淸さん忘れないでね。（再び淸子に接吻する。）

場内どよめきて、晴江（二十四五、年よりは地味なつくりであるが、美しき容姿。丸髷に赤い手柄がよく似合ふ。）登場。

晴江。（直也を探す心にて、階段の所迄急ぎ足に來り、廊下の電燈の光に照らされた、廣場の直也と淸子の樣子を見てはつと驚き輕くよろめいて階段の柱につかまる。）

靜かに幕。

大正四、五、二四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

# 獸性と人間性とに就いて——原田皐月

人間の正道は必ず一夫一婦であるべきであると云はれた。又男子は本來多妻的で女子は一夫的であると云はれた。

女性の一員たる自分は男子の實經驗を持たない事は云ふ迄もない。從つて男性に就いては推斷以上に何物も云ひ得ないのである。否女性全般に對してもさうである。自分は自分以外の何物をも知らない人間である。知り得てをる凡ては殆ど自分自身である。故に試驗管內に現はれた自分自身以外自分の言動の根本をなすものはないのである事を、云はんとする前に斷つて置きたいのである。

人間は何の爲に戀愛し、何の爲に結婚するか。今更ら此麽疑問を誰も顧るものはない。凡そ生物と名の付く以上、創造の時に於て天から繁殖の能力を賦與されないものはないのである。生物一代の生存は殆ど種の繁殖の爲にのみ有意義であるかの觀さへある。單細胞體から最も進化した人類に至る迄、一見繁殖が全部の目的で生存がある樣に見える。中には產卵を終ると亡び行くものさへもある。人類も生物である以上、男女相愛し結合するのも



Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

夫等定められたる拘束内にある所以に外ならないとして、何人と雖も這義を狹むものはないのである。然も人間の男女相愛し、結合するに當りて其間に實に微妙な心理狀態、意識世界が展開する。各個人は是等微妙界にあつて種の繁殖などを意識して居るであらうか？必然的に表れる結果としてのみ人は首肯し得るのではあるまひか？人間は意識に依つてのみ知る事を得るのである。知つて始めて行ひ得るのである。行ふて始めて價値を生ずるのである。自己の意識し得ない事は暫く置く。意識し知り得る範圍から出發するのが人間の思索ではあるまひか。意識界以外の約束に迄立入る思索力は人間には與へられて居ないのである。從つて結果から見た推斷から逆に出發點に向けて論及する前に、內部から外部に考究すべき多くが殘されて居る樣に思ふ。此の意味に於て自分は結果から來た斷定は暫く置いて內側から性的の各方面を考察して見たいのである。

完全なる生育を遂げたる男女に於て、生殖機能が性慾の勃發となりて、現れる事は、完全なる消化器が食慾を感じ、完全なる肢體が運動を欲するのと同樣の作用に外ならない。否それ以上無意識的である。何故なれば饑餓に當つて滿腹を願ひ、勞働の後に休息を欲する等、人間の意識はそれ等慾望中に明かに或結果を豫期し期待し得れども、獨り性慾にありては其慾望に對して意識し得るのみで、其瞬間忘我の絕對境にありては結果を豫期するは



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

恐か、結果に就いて思考する隙もない程意識全部が慾求中に浸つて居るのが人間性慾の常態である。性交其物の滿足以外に齎らす重大なる結果には意識は何の働きをもなし得ない。何故に凡てに意識的であるべき等の人間が性的方面にのみ斯くて、又何故に性的方面にのみ斯くある事を吾人は怪しまないのであらうか。人智が其處迄發達しないうちに、決して豫側しなかつた結果が動かすべからざる證跡を殘して夫等の疑問に打勝つて了つたのではあるまいか。單に表れた結果に於てのみ野獸と相違點を見出し得ぬ事を恥ぢて、突入つて考究する事を避け乍ら徒らに性慾を以て獸性と却け去りて自ら尊がつたり、外面的の道德の幕を張り渡して其蔭から蔑視を投げて高尙がつたりして、閑然として居るべき問題ではない事を切に思ふのである。

然らば人間の性慾と獸性とを如何に區別するか。私はそれに答へて戀愛の附隨しない性慾のみの性的亢奮をさして獸性となし、戀愛の附隨した場合の性的亢奮を人間の性慾と云ひたいのである。何故ならば性的慾求丈けの性的亢奮其物の中には人間としての特種の閃めきを何處にも見得ぬからである。古往今來獸性として蔑まれた所以である。人間の性慾はそれ等本能に最も意識的の戀愛を加へて其處に人格の融合がなければならない。性的のみに拘らず凡ての本能を野火の燃えるに任せ置く事は人間としての全價値を拋つた事であ

る。意識界の伺ひ知る事の出來ない本能は、又よく意識界に於て批判し適所に導いてこそはじめて尊いものである。本能界に一歩も食ひ込み得ぬ意識もその發するに當つて手綱を取る任務を持つのである。然かして本能が適所に驀進してこそはじめて尊いのである。又人間の尊さである。一見戀愛が非常に崇高に全く心的に見られる處から純然たる靈性であつて全然靈的に立脚し、獸性なる性的慾望とは根本から相違のものなる事を説く論者がある。其性慾と結び付く事を非常に汚辱と心得居るものさへある。係うした人間の小さな偉らがりが人間生活の至る處に轉々たるを悲しむものである。戀愛が如何に靈的なるものにしろ本能の慾求に醒めたものである事は何人も否み得ない事實である。然して異性間の牽引である事も事實である。又肉的要永が異性間にのみ意義ある事も事實である――同性間に同樣のものを間々見る事あるも、そは異性間に起るべきものゝ變體たるに過ぎない――この意味に於て完全戀愛は不具者に非ざる限り肉的要求を伴ふべきであると云ひ得るのである。如何に潔く尊く純潔に見ゆると云はれても、靈的方面に廣がつた性的亢奮の片割としてのみ戀愛は有意義であると思ふのである。然かして肉的性慾と結び付いて始めて戀愛が戀愛として意識的なる價値を生じ、人間性慾として意義ある所以である。然し時に戀愛に於ても甚しく强度の性慾避忌を見る事はあるが、そは生理的缺陷者に非らざる限り悉く凡

てが性慾の變化である事は生理學者に由つて屢々說かれた事である。

此處に至つて自分は人間の性的要求中に獸性を離れた戀愛を見出した事を喜ぶものである。然らば何故に生慾の片割の戀愛が而く人間としての誇りを感せしむるか？ 最も意識的なる戀愛は自己擴張の最も強い表れであるからである。散漫な自己、游離してゐる自己を探求し統合する事は獨り戀愛に於て、對者の中にのみ求められる現象である。自己自身の放射を對者中に統合し、自己を擴張し、完成するのが戀愛の靈的方面である。如何なる場合にても戀愛は悉く自己中心である。如何にそれが愛他的、對他的に見ゆる場合と雖も戀つて自己を見る時、其處に自己の滿足を見出さない事はない。如何に他から變體に見えても變體それ自らが戀愛者の滿足であるべき筈である。一見非常に不滿足なるべき時でも戀愛者自身にはその不滿足が滿足の場合は隨分見受ける事である。人間は、戀愛を抱き、對者を得て始めて一箇人格を完成し得るのである。然かして散漫した游離した自己の統一が出來るのである。靈的に自己を把握してこそ始めて肉の何物なるかを知り得るのである。靈肉渾融の絕對我の神境は其處に始めて表れるのである。此處に至りても猶ほこの人間性慾を野獸性と蔑すみ恥ぢる徒を見出し得るならば、私は云ひたい。自己が不眞面目で、自己が獸的で、自己を人間として取扱ふ誠意と努力を全々放棄した憐むべきものなる事を。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

然し此處に解けざる疑問がある。何故に各箇人自身が各箇人自身を自己内に獲得し得ずに對者に俟つのであるか？人間は何故に性慾を有するかと云ふ疑問に答へ得ぬと同樣、この不思議な、而して微妙な働きに答へ得る能力を未だ持たないのである。曾種の繁殖と云ふ結果の表れに肯き得るのみである。自分は人間の意識が性慾の結果と迄働き得ぬ不完全を喞ち乍ら、其際の來らん事を切に願ふものである。

人間の正道は必ず一夫一婦たるべきであると云はれた。又本來男子は多妻的で女子は一夫的であると云はれた。然し自分は上述の理由から押して戀愛は一時に、一箇人に自己の全要求を充し得ぬ場合がある事を首肯し得るものである。田村俊子氏の炮烙の刑の女主人公の樣な場合は隨分多く有り得る事に思ふ。否一人の對者に自己の凡ての要求を充し得る場合は極めて少數であるとも思考し得るのである。けれども現在同時に二人以上の愛者を持ちつゝある人の少いのは單に因襲道德から許りでなく、戀愛者の多くが一人の對者に注ぐ愛が第二者に及ぼす餘裕を持たないからである。自己の要求の充されない不滿足は愛の充實に打消されて居る場合が多いのである。眞の戀愛に於て人間は愛の過剩に耐えられるものではない。必ず如何なる時でもあらん限りの愛を與へ、あらん限りの愛を得んとするものである。故に此處に對者の一部人格に愛の過剩若しくは欠陥を見出した時、それが第



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

二者に及ぶ事はあながち不自然とも眞要求の破壞とも云ひ得べからざる場合がある。然し此處に一言云ひたいのは人間は始めから愛の分割を願ふものではないのである。一人者に依つてのみ全き愛の要求を充さんとするのが自然であらねばならぬ。第二者に渡つた時必ず一人者に對するより以上の散漫を免れないからである。然して一人者に全き愛の要求を充し得ぬ場合、其欠陷を補ふ爲の努力は又當然惜しむべからざるは云ふ迄もない。愛の分割は其後に來るものである。破壞するには猶愛の存在を承認し、愛の全部要求を充するは愛の欠陷を感ずる場合のみである。然して分割に對する不滿、苦痛は又當然の事である。人間が性的方面の慾求、機能を持して生をこの世に殘した以上は、然かして速に人間にして神ならざる以上は對者を求めて自己を完成せんとする以上は悲慘なる事實には相違なくも又止むを得ない事である。此處に至りて私は暗夜に物を索むる人間の運命を思はずには居られない。即ち人何萬人の中に眞によく自分に結付くものを求め得るものが幾人あるであらう。吾人は常に轉々と迷うて猶求め得ず、中途に引掛つて懊惱してる輩を見るのも止むを得ぬ事である。然し往々には以上述べたことと似て非なる現象がある。始めより戀を二三にし、戀を分割して戀の統合に些の努力をも持たないものがある。自分は其樣な愛は斷じて戀愛と云ひ得べきものでなく、單に遊戲と視做す外別に意味を見出さないのである。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

一夫一婦は愛の至極境である。多妻多夫は不如意戀愛の必然道程である。然して男女に於て相違を見出さないのである。

歷史に徵する時、男子は多く多妻的で、女子は多く一夫的であつた。然し是れに依つて女子が常に完全戀愛をなし、男子が常に不如意戀愛に陷つて居たのでない事は言を俟たない。只男子は强大な體力から來る生活力の安心があるに反し、女子は弱小な體力――其始めより弱小であつたのか分娩育兒等の爲にいつか體力の消耗を來たして了つたものか自分には判斷が付かないが――から來る生活力の缺乏に加へて分娩育兒に對する本能及び責任觀に捕らへられて、戀愛の完全要求を充す慾望を自ら徂害し來つたのが第二の天性を爲し、又道德を形造つた觀がある、一方男子にありては生活力の安心が戀愛にも生的にも慾望の上に贅澤の翅を伸した結果、殆ど操惑的遊戲に出發點を見出す程の不眞面目さが生じた爲、益々多妻的傾向を帶ぶるに至つたのであるらしく思はれる。然かしてもと〳〵生理的にも體力的にも全部受働的の女子は、稀薄な生活力を男子の操惑的遊戲の能動力に訴へて、此處に尤も悲慘な職業、性交性慾の賣買が女子の上に表れる樣になつて來たのである。女子にありては其處に職業的欲求の外他にあり得ない樣に思はれる。男子の多妻的欲求に對する多夫的欲求の現れでない事は疑ふ餘地のない事である。然かして女子の多夫的傾向



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

は例外を除いては永く葬られた觀がある。

内に醒め、自己の眞實欲求を不斷に求めて止まない是れからの女性にありては戀愛も今迄の樣に單純に片のつくものではなく、雜多な眞理作用が縱横に織り込まれた複雜な形に表れて來る事であらう。然かして其處に今迄の道德標準から押して判斷する事の許されない場合も生ずることであらう。

これ等を考究し來る時、自分は始めて至極の戀愛境に身を置いて居る幸福を思ふものである。殆どそれ等を意識して居ない程自分の身邊は一人者に依りて全部充され盡してる異數の幸福を思つて筆を擱く事にする。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

# 青 疊——五明倭文

## 三

楓や櫻の深い綠色の葉蔭から鴨居に垂れた青い簾を通して、涼しい風が絕えず心地よく吹き入る六疊の居間に床を延べて橫になつた枝美は、感傷的な眼を爽やかな朝の空氣に彩られた庭に抛げて靜と思に耽つてゐる。眞中から分けて結んだ束髮はそゝけて迫つた額や窶れた頰にかゝつた柔かなおくれ毛は、折々風になぶられ、それが如何にもやぶたさげに見えた。

「田舍へ歸る！」

太い溜息と共に慿ふ呟いて、それは迚も彼女に堪えられないと、云つたような暗い色を細い眉の邊りに現はしたが、枝美はそのまゝ眼を閉ぢて朝の間の靜かなタイムを己の掌にしようとした。けれども其枕元の文机に乘せてある小さい置時計の、針を運ぶせわしないセコンドの響は、彼女の胸を徒らに焦々させる許りで、絕え間ない心の動搖は暫らくも靜止することが可能なかつた。



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

田舍暮らしの數年、それは彼女にとつて忘るゝことのできない痛であつた。彼女はつとめて郷里のことを頭に畫くのを避けようとした。粗野な田舍人のいぎたなく人を罵る下卑た言葉や、樣子は思ひ出してさえ慄然とする。

「どうして田舍へなど歸られよう!」

枝美は恁ふ思つて復た深い吐息をしたが、側に擴げたまゝ抛つてあつた新聞紙の、激しく風に煽られてばさ〳〵する音に眼を開け、思ひ出したように枕の下から一通の手紙をとり出した。それは今朝姑の名でお豐から來た歸國せよとの手紙であつた。文面は別に特異の點もなかつた。唯姑が先月の法事から氣分が勝れず、それに精は遠方へ行つてるので、何かと心淋しくもあり又子供にも久し振りで會い度いから、都合して是非歸れと云ふのであつた。が、之を讀んで枝美は此筆に現はれた丈の單純な書信として虛心平氣にそれを讀むことは出來なかつた。

「お前の秘密、それは凡べて曝露した」

恁ふ云ふ囁きの何處からともなく聞ゆるような心地がして、彼女は吾知らず其の手紙をずた〳〵に裂いてまるめた。そしてそれを手の中に握つたまゝ、復た眼を閉ぢて遣る瀨ない胸の悶えを抑えようとした。

過ぎ去つた數年間の生活の痕は、フヰルムのように頭の裡を通つて、苦しかつたこと悲しかつたこと悦ばしかつたことの樣々な影は、濃く淡く種々な色彩を帶びて眼に映る。

人は何の爲めに結婚しなければならないのだろふ。唯束縛される爲め、苦痛を味ふ爲めそして獨りねの寂しさに堪えねばならぬ爲めだろふか。且つて田舍に居て離婚問題のやかましかつた時、別家の叔母が「もふ跡取りの二人も出來たのだからあんな嫁は、出して仕舞つたつても可い」と、云ふような言を座敷で姑に云つてゐたのを、襖越しにちらと耳に入れたことがあつた。

結婚は唯祖先の祭りを繼ぐべき者を得むがため許りなのだろふか。

枝美は自分の結婚生活を顧みて、それが遂に何んの意義を有つて居るのか理解することが可能なかつた。江戸の敵を長崎で討つ的のそこに何の根據もない固陋な因襲的思想から責むべき理由もないのに責め、鞭打つ道理もなくて鞭打ち、徒らに絶對の服從を強いようとする無理解な人々のみに取りまかれて居た彼女は、獨り精に依つて生きて行かふとした。

精はまた深い同情と理解とを以つて彼女を庇護した。けれども功名にいそがしい彼は、新婚後泌々その歡樂を味ふと云ふ間もなく西と東に別れ獨り無意味な壓迫に苦しむで來た其妻の、激しい同棲の慾求を深く思ふ遑もなくさらにまた海外へ向つた。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「之れから眞實の生活に入るのだ」恁ふした希望と喜悅さを以て、世帯を持つたのも、枝美に取つてはほんの束の間の幻に過ぎなかつたのである。

枝美は二人の子供を相手に淋しい夫の留守を守つて、尠くも月に一度は屹度來る遠い國からの音信を何よりの慰藉としてゐた。

折々は又　の情を罩めたペンの跡に、美しいカードや繪端書が同封してあることもあつた。そう云ふ時、彼女はそれを机の上に並べて、

「これがお父さんの今いらつしやるお國なの、お父さんはこの奇麗な公園を通つては毎日お役所や學校へお通いなさるのだよ。曠ちやんや明ちやんもおとなで克くお母さんの云ふことをきくと、今に屹度お父さんから皆で來てもいゝと云つて下さるだろふ。」などゝ二人の子供に云つてきかせては、發作的に襲はれる心の奧のさびしさ物足らなさを虐げようとした。

父に對する觀念のまだ割合に淡い子供等は、珍らしい建物や人の美しく彩色された繪葉書を見て、母に說明される時、僅かに父と云ふ名を小さい軟かな頭に浮べる外は、滅多に「お父さん」とさえ呼んだこともなくて、只管我を通すことにのみ囚はれて居る。其僞りのない、天眞な子供の容子を見るにつけても枝美は、自分を僞り人を欺いて行かねばならぬ

浮世の苦しさを思ふのであつた。

月に一回來た精の音信は二月に一回、三月に一回、それも初めとは違つて公務に忙しい身、學事に沒頭されてゐる身の音信のないのは無事でゐる故と思つて、決して案じて呉れるな、それよりも自分を大切に子供の教育に意を注いでくれと云ふような簡單なものになつた。

枝美は都に孤獨りさびしい春秋を三度迭り迎えした。

三月の、彼岸櫻が上野の山に咲き初めて長い間縮かまつてゐた人々の心にポカ〳〵と温かい感情が解けて流れて、何となく若い血潮を湧き立たせるような日であつた。

枝美は子供も連れず一人で日暮の方に幼な馴染みの友達を訪ねて行つた。其日、友達は相憎留守であつたが、それでも折角來たものを暫らく待つてくれ、と云はれて、かねて案内知つた二階へ昇つてゆくと、そこの座敷に一人の年若い男が居た。思ひがけない女客が這入つて行つたので、男は驚いたように慌てゝ立つて階下に降りて行つた。

婢が茶や菓子を階下から運んで來て、何かともてなしをした。枝美は暫くの間、見晴らしのいゝ二階の窓に近く倚つて、御行の松の邊りから新らしい貸家の殖えてゆく郊外のさまを見やつてゐたが、友達はなか〳〵歸つては來なかつた。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

其時先刻の男が復た昇つて來た。座敷に這入つて、此度は丁寧に挨拶をしてからニコ〳〵と、愛嬌笑ひをして、

「嫂は今日少し歸りがおそくなるかも知れませんが………」

と、云つて女客の顏を正面に見た。

枝美は其時、男の驚く程美しい白い肌の色を見た。瘦せた、けれどもよく發達した肉體の男らしい肩の邊りを見た。黑い涼しい切れの長い眼を見た。そして純な、何處となく賴もしげな若々しさを有つてゐる一人の靑年を知ることが出來た。友達は直きに歸らぬと聞いても枝美はそのまゝ歸つて仕舞ふのが殘り惜しいように思はれた。そして妙に娘のような落ち付かない態度でゐた。男は氣輕に打ち解けた風で話をした。男は友達の夫の弟であること、鄕里は紀州で和歌の浦の月夜の絕景や、紀三井寺の眺めのいゝことなど、おもしろく話して聞かせた。歸る時、枝美は玄關迄送つて出た男に、自分の家へも是非遊びに來てくれとも云つたのだつた。

それから一週間許り經つて後、枝美は復た友達の家に行つた。てつきり居ると思つた男は、もふ谷中の或る寺に下宿して居たのである。枝美はその時自分の胸に此頃から芽ざした、かつて味つたこともない云ひしれぬあやしい悶えの謎をとくことが出來たのであつた。

美しと見る間もなくて花は散つた。其惜し氣もない落花の風情を春のおぼろの月影に照らす狂など、枝美は上野の森を拔けて本郷の家に歸つて行くこともあつた。そして黑い高い一人の影がいつも枝美を庇ふように、その肩と肩とを打寄せて樂しげに囁き交して行くのであつた。

枝美は其頃から、精を思ふのが一種の苦痛となつた。精を思ひ遣る時、彼女は形容し難い責苦と烈しい胸の惑亂とを感ぜずには居られなかつた。けれども彼女はそれが爲めに精を自分の腦裡から奪つて了ふことは可能なかつた。また時として其責苦、其惑亂がいつの間にか以前のなつかしさに變つて居ることさへあつた。

「私は矢張り精を嫌つて居るのぢやない」

恁ふ自分で自分の心を辯解するように、呟くこともあつたが、併もHに對つて濺ぐ熾烈な愛情の流れは堰くことも阻むことも可能なかつた。彼女はもふ自分ながらどうすることもできないのを感じて唯此上は感情の奔るがまゝに委せるより外に自分の行くべき道はないと思つた。それにつけても恁ふした不安な状態がいつまで續くだろう。そう考へてはまた更らに心のあわたゞしさを覺えるのであつた。

精によつて充たされなかつたものたりなさは、遂にHとの戀を生んだ。自分に對して深



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

い同情と理解とを有つてゐる精は決して一途にこれを責めはしなかろふ、恁ふ枝美は考へて居たのであつた。

「田舍になどどうして歸られよう………」

枝美は復た恁ふ繰り返して深い〳〵太息をしたが、蓬のように結ぼれた沈默の、心の惱みは、遂に彼女を凝としてはおかなかつた。

枝美はいら〳〵したように床の上に起きて靑い疊へ眼を落した。白い縮みの浴衣に水色繻子の半巾帶を締めた細々とした身體の、重苦しそうな呼吸ざしは、其處の邊りにしるく見られた。

「母さん！」

恁ふ呼んで椽側の方から曠が驅けて來た。

枝美はその晴しい無邪氣な顏を見やつて、

「まアこの汗は………今迄何してたの？」

恁ふ云つて枕邊にあつた自分の手拭を取つて、赧々と陽にやけた曠の額の邊りを拭いてやつた。

「何してたつて、僕母さんが御病氣でつまらないんだもの………母さんもふ御病氣はいゝ



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

の？癒つたの？」

と、訊いた。枝美はニッコリ點頭いて見せたが、復た何か思ひ沈んだ色を浮べて、曠の手をソット取り乍ら、

「曠ちやんお前ね、母さんがもし居なくなつたらば何とお思ひだえ？」

曠は母親の傍へすり寄つてその顔をのぞくようにして、

「母さん居なくなるつて、嘘だア、そんなこと、ね？母さん、だけれど母さんは父さんの處へいつか早く行き度いつて云つてたのね、行くの？僕も明ちやんも皆でね？」

曠は無心に母親の肩を動かした。枝美はそう云ふ吾が子の可憐しい顏を眺めて居たが、ムラ〳〵と悲しさ果敢なさが胸に迫つて、そのまゝ默つて曠を引きよせて抱きしめた。

## 四

枝美は別家の叔父に連れられて直ぐにも田舍へ歸らなければならなくなつた。

精夫婦を疎んじてゐた叔父は今迄は上京しても餘り訪ねると云ふこともなかつたのであるが、さる夜、欣造が上京して鄕里の人々からの傳言を以て枝美を訪ねた時、枝美は當分田舍へ歸らぬように洩らした爲め、叔父は突然柳田から荷物諸共枝美の一家を驚かせたのである。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

「俺もこの年をしてこの暑い時に東京へ出て來るといふはどうしてなか〳〵のことではありしないがな、お嫂さんがその、一日も早くお前さんにも歸つて貰ひ、また孫達の顏も見たいと云ふのでな、」

叔父は枝美の姑に頼まれてわざ〳〵恁うして迎ひに來たのだと云つた。そして常から冷たい、鋭い其眼の光は一層枝美には無氣味に輝いて見えた。案外にやさしいその態度は鋭い針を眞綿で包むと云つたような、何か恐ろしいたくらみを密かに胸に書いて居るのではあるまいかと思はれた。叔父はたゞ枝美の歸國をいそがせた。

「後々のことは柳田へみんな任せてゆけばよいから明日にも歸ることにしやう、それからお前の荷物も殘らず持つて行くがよい、それあ、また東京へは來るのだがな」

恁う云つて枝美の心をうかゞひ、その一擧一動に注意深く監視するのであつた。

曠や明、二人の子供達は喜んだ。留守勝ちな、でなければいつも浮々したことのない母親とのさびしい家にも倦き果てゝ、いとゞ無聊に苦しんでゐ折からであつたから。

久し振りで田舍の祖母に逢はれると云ふのが第一、澤山の伯父さんや伯母さん達にも逢ふことが出來る、そしてまた裏の果樹園へ出て精蜜桃や林檎の枝なりを取つて食べよう、久作爺に頼んで釣針をつくつて貰ひ川へ沙魚つりにも行かふ、水浴びにも行かふ、どれも

これも樂しいことゝ許りであつた。

子供達はこの大叔父さんの迎ひに來たと云ふことを、何にもわからずにたゞ喜んだ。そして母親にせがんで一日も早く／＼田舍へ歸らふぞ〻わぎたてた。

枝美は一人惑つた。苦しんだ。かう云ふ時せめては精が居てくれたなら、どんなに自分は心强くも思ふだらう！と矢張り夫が慕はれるのであつた。併しもう歸るより外に仕樣もなかつた。子供達の夢中になつて喜ぶのを見て枝美はそれでもと、頑張つては居られなかつた。兎に角叔父の手前、枝美はあれこれと荷をまとめにかゝつた。

その間にも絶えず枝美の胸に閃いてゐたのは、Hのことであつた。彼はどうしたらう、この間田舍へ歸る時電報を出しておいたぎり、まだ何の音信もしなかつた。來月になつたら直ぐ歸つてくれと賴んだ。彼も初旬にはきつと歸京すると云つた。それからもう幾月にもなる、どうしたと云ふのだらう、多分私からの手紙を待つてゐるのかも知れない、手紙を出さう、だが何處へ？紀州からもう歸つたつたのだらうか、けれども私のこの苦しい胸の痛みを、此方のことをみんな打ち明けたら、まあ失望するだらう、歎く／＼だらう、きつと私のために泣いて、泣いてくれるだらう、あゝ逢ひ度い、も一度、併しもう暫くは逢はれないのだ、いゝえ、もう永久に、そして、そして私は私一人丈の行く道がある………



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

枝美は播くものは苅ると云ふ言葉をまたしても胸に畫いたのである。

明日は發たうか、明後日はと、只管叔父に責められて、やう〳〵叔父が來てから五日目婢は柳田へ一時遣はし、家は欣迸の先生といふに貸すことにして、明日はどうでも發たねばならぬやうにそれ〳〵準備も整つた日の夕方、枝美はやつれた顔をして一人椽側に腰をおろして、暮れてゆく庭の薄暗い中に葵の眞紅な小さな花が今にも吸ひ込まれて了ひそうなのを見てゐた。そして四邊を憚るように、ソット懐から白い洋封筒の二つ折にしたのを取り出した。それは先刻計らずも自分が出て受取つたHからの手紙であるのだ。

枝美は厚く重ねて疊んだ薄葉を展げて復た繰り返してそれを讀んだ。――

私はこの手紙が無事に貴女のお手に届くかどうか、それさへが案じられるのです、けれども私は敢えてその危險をおかしても私は私のこの養えくり返つてゐる胸の念を貴女に訴え、また貴女のその温かいみ手に抑えられずにはもう一時も居られないからなのです、併しこの手紙が貴女のお手に渡らぬとしたら、その時手紙の運命はどうなるでせう、私はそれを思つては、云ひしれぬ不安と恐怖に慄然とせずには居られません、枝美さん、手紙を御覧になつたら直ぐに御返事を下さい、否、直ぐ御目にかゝりたいのです、日に夜に逦ふ幻ではなくて全く貴女にお別れしてから今日で何日になるでせう、私はもふ百年も千年も

逢はないような氣がします、枝美さん、私はこの頃さらに落ちつきと云ふものがありませんですからこの手紙も、とても充分に私の今どんな心の狀態で居るか、それを表明することは出來ますまゐ、けれども私は今から丁度一週間許り前の夜のお話を申上げませう、

枝美さん！あの夜の、蒼い空に鏡のように照り渡つたあの美しい月を御覧になつたでせうか、丁度月は七日許りの片われでした。私はあの日、夕月の面から例の思ひ出の多い日暮里の反圃を散歩して歸ると、私の居る、貴女もよく來て下すつた寺の廣い書院の窓に近く身を横たえて、遣る瀨ない胸の憂を靜かに抑えようとしました。けれども遂に私は堪えられなくなつて復た起つて寺を出ました。そして池の端から知らず／＼切通しの方へ歩いて來ました。本鄉には緣日の夜店商人が燃やす不快な臭氣のする燈火の中を、ゾロ／＼と黑い影が群がつて續いてゐました。私はそれ等の人達の中を急いで拔けようとして、肩と肩とが摺れ合つたりするのにも妙に疳癪が起りそうでした。好きな盆栽や鉢植えの草花にも眼は一向つきませんでした。流行の浴衣に派手なメリンスの帶を高く締めた娘達が、私の先にキャッ／＼と乾燥いで行くのさえ、たゞ五月蠅くてつき倒してもやり度いような氣分でした。そして私は貴女のお住居の近く、あの空橋の傍迄行つた時、西片町邊りにて適はしい何處の垣根越しにか、床しい琴の音を耳にしてやゝ心も靜かになりました。月はそ

の時丁度お住居の裏庭の柳の葉かげに隱れました。私は貴女の寢間だと思ふ邊りの燈火の洩れる垣根の前に立つて、ふと藤村の落梅集にある黄昏を思ひ出しました。垣の月見草は薄暗にその淡いさびしい花の色が一層私の心を悲しくさせたのでした。そして私の頰には堰止なく冷たい淚が傳はりました。小さい、併し大きな生物をよく苦しめさせる蚊が幾つも〳〵私の生血を吸ひに來ました。それでも私はおとづれもせず、去ねもせず、張りさけるような苦しい胸を抱いて戀しい門邊をさ迷つてゐたのです。そして私はやう〳〵にして貴女の、片時も忘れることの出來ないなつかしい優しい聲を聞くことが出來ました。おぼろげに、――私の心は急に晴れやかになりました。

そして貴女は笑ひましたね、私はこんなに苦しんでゐるのに貴女はまあ、何がおかしくてあんな聲が出るのだらうと思ひました。

その次ぎに私の耳に這入つたのは、男の聲でした、若い、其聲は、それから絕えず私も耳につきまとふのでした。私は復た何とも云はれぬ暗い、重たい氣分に襲はれて了ひました。誰だらふ？Ｓ君だらふか、誰だろふ？

枝美さん宥して下さい、私はあの時、烈しい情熱の亢奮と、惑亂の中にする〳〵と卷き込まれてゆく自分を、どうしても抑えることが出來ませんでした。私は遂に、潛り戸の啓

くのを待ちあぐねてゐて、あの若い瘦せた男の後影を見えがくれにつけて行きました。

けれども直きに、あの大銀杏の邊へ行つた時、私はとう〳〵その黑い影を見失つて了つたのでした。枝美さん、貴女はこれを御覽になつて何とお思ひになるでせう！今改めて云ふまでもなく貴女はよく、私のこのつけばほとばしるような血潮の、たぎり去つてゐる若い胸の中を察して下さることが出來ませう、

貴女を慕つて盲になつてゐる私は、もふ片時も貴女と離れては居られません、先月の末にも私は貴女に手紙を上げましたね、お郷里の方へ宛て丶、それだのに貴女は、貴女の此頃の態度、それが私をどんなに辛い朝夕を送らせることでせう！どうか幸にしてその手紙を御覽になることが出來ましたならば、直ぐにも來て下さることをお賴みします。——

枝美は讀み終つてホッとしたように太息をつき、それを懷に納めて復たヂット念に沈んだ。

家の内は森としてゐた。子供達は叔父に連れられて柳田へ行つてゐなかつた。婢は勝手もとでおそくなつた夕餉の仕度に忙しかつた。

茶の間の時計を見ると、まだ七時に間がなかつた。

「一寸、一寸逢つて來る時間はある、今夜叔父達はそう早くは歸るまい、そうだ、矢張り



Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

行つて來よう」

枝美は恁ふ思ふと、氣もせくようにそゝくさと押入から仕立おろしの絹絞りの涼しそうな浴衣を出して着替え、髮のほつれをかきあげて錢入を懷にすると、大事なものゝ入れてある簞笥には一々錠をおろした。玄關へ下りてコルキ草履を探がすため下駄箱をガタ〳〵させてゐる時、初めて氣のつゐた婢は水の手を振り〳〵飛び出して來た。

「奥樣、何方へかお出かけになりますので………」

枝美は一寸當惑したが何氣なく、

「あゝ一寸そこ迄で買ひものに行つて來るよ、いゝえ、直ぐ歸るのだから………」

恁ふ云つて枝美は逃げるようにして遂に、家を出た。

その夜、瑠璃色の空に星は無數に輝めいてゐた。宵に隱れた月影の夜更けて下界を照らす頃になつても、枝美はまだ家に戻つて來なかつた。（終）

四、六、一三



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

# 五月の末より六月へかけての芝居――岡田八千代

五月の末より六月へかけての芝居の中、一番私が面白かつたと思つたのは三崎座で興行された新時代劇協會の「街の子」と「銀の箱」とでございました。この連中は人も少なし大道具なども一ツものをいろ〳〵に工面したり、又小道具衣裳等も如何にも間に合せものではありましたが、それだけにこけおどしの處がなく、これ丈の芝居をするについての人々の苦心、努力と云ふものがよく見えてゐたと思ひます。例へば「街の子」の第三幕の穀物小屋の壁を「銀の箱」の第二幕のジョンスの貧家の壁に用ゐたり、横文字の新聞を見るのが至當でありさうに思へるのを日本の新聞で間に合せたり――それらはやつてつけと云はれゝば云へるやうなものゝ、舞臺に表はれた人々の努力は、これをやつてつけと見せぬほどに眞面目なものでございました。私はそこを買ひたいと思ふのでございます。さう云ふ處におのづから人々の力が顯はれて一つの興味ある芝居が形づくられたのではないかと思うのでございます。殊に登場俳優諸君の中でも宇田氏の技術の巧なのには今更感じ入るばかりでございました。どうかすると上手過ぎる個所のあるのが恨みな位でございました。上

手過ぎると申しますのは即ち調子がとゝのひ過ぎると申すのでございます。例へばそれが畫であつて高尚なものでなければならぬのに、さうではなく只實物を鏡に寫したものに過ぎないと思はれる節があるのを云ふのでございます。とは云へさだめし近頃は旅から旅を重ねて來られた事と思ひますのに、上手過ぎると云ふ事をおいては、一向に藝に荒んだ處のないのは何と云ふたのもしい事でございませう、私は宇田氏によつて力づけられた事が少なくないと思ひます。「銀の箱」の父親などにおいても無造作な中に我子に對する愛の働きを顯はす表現なども巧みなものだと思ひました。宇田氏に次いで努力の跡の見えたのは村田實氏でございませう。「街の子」に於ける書生はさしたる事もありませんでしたが、「銀の箱」のジャックはなか〱好く演出されてをりました。しかしまだお父樣のフロックコートを着て大きな絹帽子（シルクハット）をすつぽりと冠つたゞけで大人になつたつもりで澄してゐる坊ちやんと云ふ氣持がございます。しかしそれだけに無邪氣な努力のあるのを嬉しく思ひました。小笠原氏は一座の中で一番多く役をしてそしてどれも相應になされてをりましたのは何と云ふ器用な事でございませう。中でも「銀の箱」のマーローは役も好いのですけれど、親切な舞臺振でございました。日疋氏は樂人よりは「銀の箱」のジョンスを賞めたいと思ひます。しかし此お方はかなりの技量はあるのですが、餘りに下卑て造られるので如何



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

かすると舞臺の人として不愉快に思はれる處がありますのは誠に殘念な事だと思ひます。青山氏は神林氏は「銀の箱」の裁判長の方が「街の子」の父親よりも本役らしく見えました。風采において妙に調子外れの處はあり「銀の箱」の代理辨護士が心持よく演ぜられました。ましたけれ共。

淳子氏の「街の字」のゾフィイはハンスを失なつて空しく叔父の許に淋しい暮しをしてゐる處女としては少し色つぽくはないかと思はれました。しかし樂人の話しの中に今其處へ尋ねて來るのがハンスと知れた時の驚きと悲しみとの表情の中には可憐な優しさが見えてをりました。そして此人の癖でもあるらしい左へ首を傾げる樣子が又なく娘らしいあどけなさを示してをりました。榮子氏は「街の子」のハンスの妻よりも「銀の箱」の見知らぬ女の方が適つてをりました。ゲルトルウデは通して隱氣なとりなりが觀者に淋しい内氣な女性の趣きを見せてくれましたが、それがかなり巧みに演ぜられるのにもかゝはらず、何處かのんびりとしない處が見えたのは、見知らぬ女が隨分樂にやりこなしてゐながら、眼に觀るだけ以外になほ或る興味――親しみ――と云ふやうなものを感ぜしめたのに比べて、此お方はあゝした陰氣な役よりもかうした云はゞ傳法な肌合のものゝ方が向くのではあるまいかと思はれました。しかし、あの傳法が適る人にゲルトルウデがあの位に――此優のし

ぐさで泣かせる程に――演せられるのは確かに技量のある優だと云ふ事が證せられるのであらうと思ひます。愛子氏は「銀の箱」の下女の惡びれぬ處をとり度いと思ひます。惜きずにお演りになる事を願つておきませう。英子氏のバルスウヰック夫人は演技法に於ては帝劇女優の菊枝氏に類似してゐて、あれでも結構なのではありますけれ共、俳優と云ふものは只此役はかう云ふ風に演じれば夫でよしと云ふやうな事では決して舞臺好果の表はれるものではなくてさう云ふ心掛けでゐますと、菊枝氏にも此優にも表はれるやうな、其役に不必要な自分が出て、其自分と云ふものが好いにしろ惡しいにしろ、何となく厭味な或物がその役につき纏つて、觀者にとつては此上もなく、其劇を味はふのに邪魔になるのでございます。俳優はまづ自分の性格と役の性格とを比べて考へ、その後に其役に邪魔になりさうな自分の性癖を除く事につとめ、さてその後に其役の完成をくはだて、其完成と現代の觀者の中の最も高くそして正當な考へを持つ人々の眼識をも比べて其舞臺上の好果の如何を考へて後演ず可きではなからうかと思ひます、何にあつてもさうではありませうが殊に俳優の演技は一人で定める譯に行かず、演技者と觀者との裕和、又演技者と演技者との統一など、忘れてはならぬ要件であらうと存じます。歌子氏のジョンスの妻は、此お方の出世藝の一ツとしても好いと思はれました。此役で此優の特色と見えましたのは、自然に演



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

せられる細かい科でございます、例へば、バルスウイック家の室の掃除をする時の注意の細かさともの靜かなとりなり、呼び出されて身の上を尋ねられる時に、手持無沙汰な手が、常にみぢめな着物の前を引きつくらう事を忘れなかつた事等でございます。そしてその頭に良夫と子供とがことを忘れずに入れられてある事が感ぜられた事なども細かさの一ッであらうと存じました。

さて此面白かつた芝居に次いで美しかつかと思ふ芝居は有樂座に於いて演ぜられた「茨木屋幸齋」でございませう。然し演技者にあつては東儀氏を除いては村田みね子氏の太四郎妻の懸命なのと大村氏の浦上の眞面目なの位が取柄でございました。あとの人々にはどうしてもトラはれてる處が見えて倦きたりませんでした。同時に演ぜられた「棟木」も面白い芝居の一つには違ひございますまいが、あまりに演技者が只脚本の白を其儘口うつしにしたと云ふ處がございました。特に里人を演ずる人々に於いてさう云ふ難がございます、もつと詩的に――幽玄に――自ら觀者をしてさう云ふ事もあらうかと思はして――醉はして終ふ丈の力が足りなかつたかと思ひました。

次に、俳優自身の力によつて好く演ぜられたものをあげて見ますと、市村座の菊五郎氏の「文屋」と本郷座の左團次氏の入鹿の父と、羽左衛門氏の辨天小僧とであると信じます。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

この三つについては類と眞似手がないと云ふ事が云へさうでございます。菊五郎氏は中幕の重次郎でも美しい優しいそして勇氣のある若武者を演出して遺憾はないのでございますが——殊に「殘る蕾の花一ッ」でしを〳〵と去つて下手の木戸の處に立ち、刀と一處に持つた下緒をハラリと落す科など——呼吸もつけぬと云ふ心持は後の文屋の方にあるやうに存じます。しかし氏にあつても、「ちんが、ちがちが、大つめた」の邊で手を叩く觀者の低級と同時に「衛士の焚く火は——澤邊の螢」邊の微妙な演技を見のがす觀者のうかつとを憎まれなければならぬと思ひます。私が氏の所作でいつも感じますのは、背景になる處の三味線と唄とを、踊と共に活かして行くと云ふ處でございます、その例として、これでは「傘を、かたげて丸木橋おつこあぶない」の邊を差し度いと思ひます。さう云ふ處は丁度巧みなコンダクタアが動かす小さな鞭の先から偉大な管絃樂が生れて出るやうな感じがあると思ひます。左團次氏の入鹿の父は、ひとへに此優の力で演活かしたと云つても嘘はあるまいと思ひます、「雨が降つて來た」と云つて狂はしく舞臺を左右に走け廻る邊などは、何とも云へない崇高な處があるのに感じ入りまして一層此優を尊敬せずには置かれぬ樣な心持がいたしました。羽左衛門氏の辨天小僧は、今迄私が見た中——と申しても極く狹いものでせうが——では一番好いと思ひます、その中にも駄右衛門に「確かに女」と云はれて「えゝ」さ

ごつちつかずに驚き、刺青を差されて、「や」と全く男になる、あの段取が全く私の氣に入りました。それから女の着物をぬいでから、あの着物をこの變裝男子を良彩る道具にしやうとした作者の心持も又好く此優によつて活かされたと思ひます。裝つてる中は全くしをらしい女性と見え、脫いでからは、とてもそんなものは似つきさうもない男と見え、しかもその脫いだ花やかな着物が此男を飾つて一つの繪とする作者の働きが少しの無駄もなく活きて行つたと思ひます。――今迄私の見た優達のは、どうも繪にならなくてはならないで居ながら繪になりませんでした、そしてあの着物が只だらしなく纒はりついて形になりませんでした。又さもない時には顏にも腕にも足にも男性になり切らぬ處が見えて物足りませんでした――緋縮緬の上へ大名縞の南郷の羽織を着た形も、誠にきび〳〵とした好い辨天小僧でした。まづ近頃での氏の傑作と思ひます。

此外に帝劇の舞臺協會の「父親」「ヱニスの商人」等がありましたが、小宮さんの初陣としてあまりに力ないものと存じましたから一寸御遠慮いたして置きます、私の尊敬する此協會の俳優諸君をいたづらにけなし度くございません爲めに。

（四、六、二三）



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

# 偶感二三
野枝

子供が發育して行く樣子をぢつと見てゐると恐ろしくなつて仕舞ふ。彼等の小さな頭には何事でも知らうとする注意と熱心で一杯になつてゐる。特異なものに感ずると大人の氣付がない木の葉の一片にでも熱心な注意を向ける。そうして、あらゆる事を知り、そしてそれを自分のものとなしおふせる迄は幾度でも根氣よく同一のことを繰り返し〳〵やつて見たり或は云つて見てゐる。そうしてはまた直ぐと次の事柄に向つて同じ熱心をもつて向つてゆく。さうして次から次へとうつつてゆく熱心さには何物も立ち防がることが出來ないやうな強い力をもつてゐる。

さういふ樣子を染々見てゐると私は子供の敎育について多くの理想をもつてそれを子供の上に强ひやうとしてゐる人を氣の毒に思ふ。殊に子供が外に多く居るやうになつて來ると更に多くの事を見聞する、さうして大抵のことは自分ひとりで考へて仕舞ふ。

所謂、敎育方針と云ふものゝ爲めに子供に對しての考へがまるで子供自身の爲めにでなくて敎師自身の爲めに多くの型にはまつたものが作へられてあるがために子供は勿論、敎



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

師自身も苦しまなければならない。

私が今のすべての教育の一番間違つてゐると思ふ點は、教育者が何時でも無條件で自分を多くの幼き被教育者よりも優れた者であることを主張しやうとしてゐることだ。その事は子供の正直な眼からは却つて何の權威をも認められないことになる。そうして彼等は子供等より自身を一段高くおかなければ教育する事は出來ないと云つてゐる。それからもう一つは、物の善惡と云ふものは容易に決せられるものも多少はあるが先づ容易に決せられるものではないのだ。然るに彼等はそれを容易に決しそれを動かす事の出來ないやうに眞理として子供の頭につぎ込んでゐる。これは恐ろしいことでなければならない。善惡と云ふよりは寧ろ具體的に表はれた一つのことについてどう解釋すればいゝか、と云ふやうな大切な根本の智識について教へて貰ひたい。彼等の頑迷無智な頭腦とそれ等の人に依つて出來た教科書に依つて教育されるが爲めに小さき人達の大半は偏狹な道德家となつてゐるかさもなければ巧妙な虛言吐きである。今の學校教育は子女をよくするものでなく小さき彼等を苦しめ害ふものでなくて何であらう。私は私の大切な子供のために眞の意味に於いて教育家の自覺を待つものである。教育は畢竟人間の意志や理想でどうにもなるものでないと云ふことを知つて貰ひたい。只子供の先輩としては子供自身が自分を育てゝゆくに必要な



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

智識を與くる事丈けで澤山だ。

自分の眞實を裏切られる位踏みつけにされることは又とない。よしその眞實が再び生き返らうとも一度裏切られたと云ふ事實は何處迄も消えはしない。自分の眞實が尊いものだと云ふ信念がつよい程それは忘れることの出來ない痛手である。尙もそれが身も心も捧げつくした愛の眞實に至つては更に深い痛手でなくてはならない。

自分に與へられてゐるものだと信じてゐるもの、自分ひとりが握つてゐると思つたものが何時の間にか、他へ向つて與へられてゐるとわかつたときに直ぐに自分が與へてゐるものをも取り返すことが出來るならそうしてそれで單純に形づいて仕舞ふならこんな樂なことはない。けれども愛はそれ程簡單な差引勘定でおしまひにすることが出來るものではない。よしまた打算的一方で形をつけやうとしても知らずに自分丈けが與へてゐた間丈けの損失をどうして取り返すかと云ふ問題だけでも一寸は形がつかない。

對者の愛が旣に自分から外れたと思つたとき直ぐに對者に對する愛が醒めさへすれば世の中には何のかなしみもない。私はそれが出來るならさうもなり度い。けれども何時でも何にいつけても矛盾はかなしく私たちをつけまはす。



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

私は何をしても何を考へてもいゝ加減で止めたくない。終りまで乾度追求しないではゐられない。それは時にとつては私に、大變な結果を持つて來る。かうかしら、あゝかしらと考へてゐるうちに熱心に、それからそれへと持つて行つて終に自分で氣がつく頃にはそれは空想ではなく實際のことのやうに私は一生懸命に考へてゐる。そして自分で考へまいとする事柄に向つてはなをさうである、それは私のかなしい性癖である。やうやく痛みを忘れかけた頃になるとまた何時かしら思ひ出して考へ〳〵丁度そのときに受けたと同じ絶望の處へ自分を導いて行つてきた我と我が痛みをつゝいては思ひ出し〳〵何時までたつてもそれを忘れる事が出來ない。けれども私にはかう云ふことは滅多にない、併し此度だけはさうしないではゐられなかつた。今も私はそれを續けてゐる。月日はずん〳〵去つてしまつても私はそれ丈けは忘れることが出來ない。そうしてはまた自分が對者を愛してゐながら信じやうと努めながらその事に向つて丈けはどうしても信を向けられないのをかなしんでゐる。一番二人にとつて大切な信をおく事が出來ないと云ふのは何と云ふ悲しいことであらう。そして而も私は對者を愛してゐる。その愛はだん〳〵に喰ひ入るやうに深くなつてゆく。そうして私の眼前に彼がある間は私はすべてを忘れてゐる。けれども彼が私の傍から去ると私はぢつとしてゐられない程不安になる。さうして私はたゞ彼を信じたい



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ともかく。然しそれはどうにもならない。遂には私の信を奪つた、踏みにじつた彼の行爲を染々情なく思ひ出すより他はない。そうしてはまた、私はふれてはならない疵口にさはらないではゐられなくなる、こうしてだんだん私の空想が深くなつて眞實らしくなつてゆく。私はひとりでゐる時に氣が違ふのぢやないかと自分でも思ふ位だ。それでも私は私自身の彼に對する愛で何時の間にか縛られてゐる。けれどもそれを意識すると同時に、私は彼の虛心な顏を思ひ出す。彼は私がどんなに苦んでゐやうと何事もなかつたやうな顏をしてゐる。それが私を苦しめる。彼には私、彼女には他に愛の對象たる男がある。さうして、ひよつとしたはづみに二人は私を裏切つた。彼は私の愛人としてまた良人としての愛を、彼女は私のうとい肉親の中の唯一の者として愛した從姉の愛を、また男に對する愛を。それは私には二人のふとした出來心であるとして、二人の過ちにしやうとした。併し私の穩かな顏色を伺つた二人は却つて二重に私を踏みつけた。私の眞實を踏みにじつたことに對して二人は何の感情も表はさない。私の苦しみは極めて安價に眺めらてゐる。それは私をどうしても二人の愛がさうした一時のいたづらな出來心からでなく本物でなければならないと云ふ結論に導いてゆく。もしさうならば彼が再び私にかへつて來たと見えるのは虛僞でなくてはならない、私たちはそれによつて、どうにか解決をつけなければならない。併し彼

はそれを否定する、さうして私もその否定を受け入れてはゐるけれども私の不安がすつかり落ちついて仕鉡ふやうな力強いものを彼は決して私に與へやうとはしない。そうして私はそれを强ひて彼に求めたくない。それはまた決して强ひて求むべき性質のものではない。それが與へられさへすれば私はすつかり落ちつけることがわかつてゐる。けれども私はどうしてもそれを要求することは出來ない。彼自身から氣がついて與へてくれる迄は私はおなじ苦しみをつゞけなければならない。何時までも〳〵。そして私の愛は、不安であればある程だん〳〵深みへはいつてゆく。私はぢつとして自身のすがたを見つめてゐるのだ。

私が私の良人よりも多く名を知られてゐると云ふことの爲めに私達の關係について屢々侮辱が加へられる。

一體名を多く知られると云ふことがどれ程その人の價値を高めることになるだらう。私が名高いと云ふことの爲めに、私が何も良人の價値を蹴落しはしない。私は私の名が出たと云ふやうなことにつけても日本の社會の淺薄さを思はないではゐられない。私は何の人に卓越した智識もなければ技能も持つてはゐない。私はたゞ私の僞らない感想を筆で書くと云ふこと丈けしか出來ない。それは誰にでも出來ることなのだ。それなのに、そう云

ふことを書いて發表する人が少數だと云ふことの爲めに、ひとり私のやうなものが名高くなると云ふことはあまりに意味のないことである。もつと〳〵卓越した婦人が出る時が來なければ私の本當のねうちは分らない。私は少からず買ひかぶられてゐる。今に私の本當のねうちが分つて來るやうになると人達は乾度あんな平凡なつまらない女と云ふやうにしかなりはしない、私は名聲とか地位とか云ふことに對しては何の野心もない。たゞ私がはやく平凡な女だと認められるやうになりさへすればいゝ。即ち、今はあまりに一般婦人の內生活のレベルが低くい爲めに、少しばかり私があたりまへなことを考へてその感じたりしたことを書けばそれが珍らしがられるのだ。けれど一般の婦人が其處まで來る時は私自身はどうなつてゐるかそれはわからない。併し兎に角私には格別の智識も才能もない事丈けはたしかだ、たゞいくらでもさうした智識を得やうとする欲望は持つてゐる。けれども私の生活がたゞ他の人々の生活にくらべていくらか眞實を多く持つてゐると云ふことしかちがつてゐないやうに、私の書くものはたゞ虛僞をまじえないと云ふこと丈けは自信と誇りにもなるけれども他の點は平凡すぎる程平凡である。

　それだのに世間の人は、私の名が出てゐると云ふことの爲めに何時でも何を見ても良人には何時も輕い侮辱の影が投げられてある。私はそれに何時も不快を感じさせられる。私

は自分よりも低いものや同等のものを戀愛の對象にしたくない。私の家庭に少しはいつて來た人は屹度彼を私よりも低くねぶみをする人はあるまいと思ふ。彼は世間的の地位や名聞に對して非常に冷淡で、何時でも自由を欲してゐる爲めに自由を拘束されるやうな位置や名聞は却つて邪魔な位に思つてゐる厄介と云へば厄介な强情な人間である。彼等は未知の人に對してあまりに禮を失してゐる。私が彼よりもずつと淺い小さなものでありながら名が多く知られてゐると云ふことに對しては實際苦しんでゐる。それは事實である。といつて私は決して彼のもつてゐるものが光らないからと云つて彼のねうちを輕く見る程無理解ではない。彼がそのまゝそれを握つたまゝ死んだとしても彼のねうちは少しもちがはない。よく知りもしないくせに彼是云ふこと丈けはつゝしんで貰ひたいと思ふ。知らないことは何處までもわからないのに違ひない。それにつまらない憶測をしたり、よくわかりもしない人から聞きかぢりを面白さうな讀み物の種にすると云ふ人々の態度を憤らずにはゐられない



Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

# 編輯室より

□先月號は風俗壞亂と以ふ名の下に發賣を禁止されました。忌悼にふれたのは原田さんのらしいのです、他には何にもそんなのはありませんから。私は少しもそんなことを考へずに、可なりさうした考へが誰の頭にも浮ぶことを思つて立派な一つの問題を提供するものとしてのせました。けれども私は不注意な編輯者としてしかられました。けれども私は可なりあの墮胎とか避姙と云ふことについて男の人たちの意見は聞きました、けれども女の意見は聞きませんから知りたいと思つたのです、今でもその考へはあります。

□それで、私は早くからかういふことについても考へてゐたのです、此雜誌に出る作品は大抵何かしら問題をもつたものが一つや二つありますので、それを考へる方はまじめに考へられませうけれど氣づかずに過すことが可なりあると思ひますので毎月前月號に出たものゝなかから、その出た月に、どれを問題にすると云ふことを極めておいて皆でいろんな方面から研究してこの次のか次の次のかで發表することにしたらと思ひます。それはたゞ一人々々でずん／＼よんでおもしろかつたと云ふ丈けよりも更にもつといゝ何かしらを得ることになると思ひます、それで前號にも申ましたやうに八月は一月やすみまして九月の紀念號からしつかりしたものを出したいと思ひます。丁度いゝ機會ですから九月から初めやうと思ひます、それで九月號には墮胎避姙についてのお考へを成べく多數の方から伺ひたう御座います、これも前月に申ました日記や感想とおなじに、たゞもうお考へになつたことをそのまゝお書き下さればいゝのでしてどんなに永くても短かくてもかまひません、何卒讀者諸姉のまじめなお考へを伺ひたいと思ひます。

□今迄は原稿の〆切がかなり後れましたが以後は十五日には屹度集めてしまひたいと思つてゐますから右の原稿をどうぞそのおつもりでお願ひいたします。但し此度は八月號をやすみますから七月一杯か、おそくも八月十日までにはお送りを願ひます、頁がふえますから印刷所にはやくまはさなければ間に合ひませんから。

□私は七月中旬迄には一度九州の實家へかへらうと思つてゐます。九月號の原稿は七月十日過ぎならば左の所あてにお願ひいたします。

福岡縣糸島郡今宿村　伊藤野枝

□今月は先月の禁止の埋め合はせをするつもりでゐましたが廿日頃まではいろ／＼な印刷所をかへたり何かする用事で原稿がかけないで廿日すぎてからは毎日のやうに氣分がわるかつたり何かしてすつかりおくらして



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

仕舞ひましたので何にも書けませんでした。九月號には七月一杯かゝりで少し立派なものが書きたいと思つて居ります。九月にはどうかしていゝ雜誌が出したいと思つてゐます。

□平塚明氏は四ツ谷南伊賀町四一にお越しになりました。

□可なり苦しい遣繰りなしてゐましたのに此度また發賣禁止を喰ひましたので大分困つて居ります。購讀費の切れた方は何卒お拂ひ込み下さいますやうお願ひいたします。

□今月はまたおち〳〵本をよむことも出來ませんでした爲めに新刊紹介を思ふやうにすることが出來ませんでした。何卒あしからず。九月號からは屹度いたします。

□大杉榮氏は小石川區水道端二ノ十六に佛蘭西文學研究會をおいて毎週土曜の夜高等科では一回讀み切りの小說脚本、講演等を講義し猶別に初等科をおいて佛語を初步から敎授なさるさうです。

## 新刊紹介

ゲオルグ ブランデス 十九世紀文學の主潮（上卷） 吹田順助譯

有名なブランデスの傑作である。本書には第一卷移民文學、第二卷獨逸の浪漫派が收められてゐる。この書に一八七一年、著者が長途の旅から歸國しコーペンハーゲン大學の講師として最初に講演したものである。彼は文學の比較研究と云ふ新方法で、十九紀前半に於ける歐洲文學の運動を聽衆の前に展開した。そして自國の文學が依然として非現實的浪漫主義の迷夢を辿りつゝある事を痛論し、又文學は人生の爲に存するものでなければならず人道主義の自由な開展でなければならぬ事を力說した。著者は又本書の卷頭に「この著述に於て予の企圖するところは歐洲文學に於けるある主要なる集團と運動との研究によつて、十九世紀前半の心理の綱要を示さむとするに有る」と云つてゐる。この書は譯者の云ふ如く單なる文藝批評と云ふよりは寧ろ人生批評、文明批評であると云ふ點に於て、その獨特なる價値を持つてゐる。眞に文學を理解しようとする人は先づこのやうな第一流の書物を精讀すべきである。吹田氏の譯筆も亦極めて明晰厳正である。（定價三圓五十錢內田老鶴圃發行）

## 寄贈書籍

お菊さん ピエル、ロテイ作 野上臼川氏譯 新潮社發行定價九十錢

最近の文藝及び思潮 生田長江氏著日月社發行 定價壹圓

トルストイ人道主義 加藤一夫氏著天弦堂發行 定價五十錢

ロマン、ロオランの思想と藝術 內藤濯氏著 天弦堂發行定價金五十錢

瞑想錄 タアゴッル著 加藤朝鳥譯 稲岡書店發行定價七十錢

# 雜誌規定

■毎月一回一日發行
■定價一册金貳拾五錢(郵稅壹錢五厘)
■前金購讀料(四ヶ月分)壹圓(六ヶ月分)壹圓五拾錢 八ヶ月分)貳圓(十ヶ月分)貳圓五十錢(一ヶ年分)參圓
■廣告料(一頁)特等三十五圓、一等二十五圓、二等十五圓、三等十圓、(半頁)七圓
■振替貯金口座は(東京二一二一六青鞜社)に拂込まれたし。
■郵券代用は一錢五厘切手に限る(但し一割增のこと)。
■編輯事務、圖書雜誌、補助團會費拂込、廣告申込、交換廣告は青鞜社へ。
■雜誌購讀に關する一切の事務は青鞜社へ。
■原稿〆切期日は毎月十日限とす。


大正四年六月三十日印刷納本
大正四年七月一日發行

禁轉載

東京市小石川區指ヶ谷町九十二番地
青鞜社內
編輯兼發行人 伊藤野枝

東京市京橋區弓町十二番地
印刷人 柴田杠一郎

東京市京橋區弓町十二番地
印刷所 千代田印刷株式會社

發行所 東京市小石川區指ヶ谷町九十二 青鞜社 振替東京二一二一六番

發賣所 神田區表神保町三番地 東京堂 電話本局二五六一番 振替東京二七〇番

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

婦人の開放・女權の擴張

# 想界の羅針盤 反響叢書 藝術界の基調

平塚らいてう女史著

第二編

## 評論集 現代と婦人の生活

▼四六版三百餘頁・定價八十五錢（送料入）

（「青鞜」讀者は定價一割引）

土曜新聞評して曰く

其容貌に於て、其思想に於て、其文才に於て、所謂、新しい女の中の女として最も優れて居るのは雷鳥平塚明子氏である。單に好奇心の眼を以て見るも明子氏は明治の末から大正の時代へかけて世を騷がした名物女の一人であり、更に之を思想上より見れば來る可き何物かを暗示する日本婦人の先驅である。而して本書は、明子氏が世間の侮辱と賞讃との間に立つて奮鬪せる行進曲を集めたるもの、其言論には未だ徹底せざる所もあり、多少奇矯に走るものもないではないが、其大體に於て個々人に逼る力の潜んで居る事は爭ふ事が出來ない。世には食はず嫌いの人が多い。一口に新しい女と言ふ誤られた代名詞に咒はれて、思想界に現はれた傾向を見逃す事があれば、後日必ず悔を貽すに違ひない。

發行所 東京本郷元町二丁目二十五 日月社 振替東京二八九一四 電話下谷三二〇六

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO

森田草平氏譯

# カラマゾフ兄弟

ドストイエフスキイ作

紙裝木版七度刷
總頁數約六百餘
一頁六號五百字

定價金九十錢
假綴分冊十六錢
送料各金八錢

本書はドストイエフスキイが永眠前一年(一八八〇)に完成した作、トルストイの「戰爭と平和」と共にロシア文學の二大平行線だといはれて居る。主人公たる三人の兄弟の中イヴンは西歐羅巴を、ミチアは現在のロシアを、アリヨーシヤは全人類を包括すべき將來のロシアを體現したるもの、と稱せられてゐるそれ故本書は過現未のロシア、最も大膽に藝術的に表現したものである。日本でもこの書の譯が二三出てゐるがまだ完結してなかつたり、あまりに單簡すぎる梗概譯ばかりである。本書はその中の最も完全なものである。

(諸新聞雜誌及文壇名家は悉く本書を激賞せり、好評三版出づ)

▲著者卷頭に序して曰く。メレシュコフスキーは次のやうにいつて居る。ドストイエフスキイの作はその人自からを見るやうな作である。ドストイエフスキイは人生を苦しんで生きた人である。生きた、苦しんだ、そして泣いた。其自分の苦しい生涯を藝術として現した人である。啻に藝術として鑑賞する許りでなく、讀者はその作物を見ると實際作者の泣いてゐる姿が見える。作者は苦しみを訴へて居る。只讀んで居るのではなくて作者と一緒に苦しみ、一緒に生きるのである。心臟の鼓動を共にするやうな心持がする。ドストイエフスキイに同情するといふだけではどうも物足りない。その生活の中へ捲込まれて、主人公と一緒に生活する。でかくまで讀者を引きつける特長は何かといへばその主人公の心理を描くことが優れてゐるからである。どんな複雜な飛離れた心理でも明細に顯微鏡で覗く樣に描いて見せる。人間の内部生活を其儘擴げて見せる。從てどうしても主人公と一緒にしてしまはなければ置かない。ドストイエフスキイの作がインテレクチュアルだといふのは主として緻密な何處迄行つても止まないやうな解剖にある。尤も只分類したり綜合したりすると言ふ意味ではなく、本當に創造するのである。ドストイエフスキイは單なるインテレクチュアル・マンではない。もそつと眞實に物を見、物を摑まへて來る人である、智的ではあるが同時にクリエティーヴである。オリヂナルである。

發行所 東京市本郷區元町二丁目二十五番地 (振替東京二八九一四 電話下谷三二〇六) 日月社

# 花袋全集

## 第壹卷

大形四六版約七百頁
總クロース箱入美本
總九ポイント活字
一頁約八百字詰

定價壹圓八十錢
郵税十二錢

少し早いやうな氣もするが、自分の生存中に全集を出して置いた方が、完全な理想的なものが出來ると言ふ花袋先生の考から、先生自身資を出して、内容に於ては後世に殘して恥かしからぬもののみを選び、裝幀、紙質等に至るまで凡て先生の嚴重な監督の下に此花袋全集が出版されることとなつた。全六卷を以て完成し、發行の順序は新しきものより順次に古きに及び、年二冊の豫定を以て發行される計畫である。敢て大方讀書子の深厚なる同情に依る盛なる歡迎を希ふ。

内容　春雨　髮　殘る花　代表的長篇三篇

本書に收めたる三篇は、花袋先生が**女性を研究し、戀愛**を描かんが爲めに、特に筆を執られた三部曲とも見るべきもので、**共に藝妓を主人公**とした最近の作に係る長篇である。現文壇の巨人の圓熟渾成せる筆致を見るに缺くべからざる代表的作品として敢て江湖に推奬する。

東京市外代々木百卅二番地
發行所　田山花袋方

麹町區三番町八十四番地
發賣所　植竹書院
振替東京一二九五三番

創刊號

九月一日發行

# 科學と文藝

定價廿五錢
郵税二錢

■農奴開放を中心として見たる露國文化……昇曙夢

■セザンヌの畫室(ヴォラール)……高村光太郎

■小さな反抗(小説)……吉田弦二郎

■新しき試み(小説)……ストリンドベルヒ

■あの女(小説)……岡田八千代

■雜感……武者小路實篤

□近代劇の「櫻の園」

■感想……木村莊八

詩歌

與謝野寛　加藤一夫　田邊若男　長瀬先司

與謝野晶子　大川與四　フオーフアノフ　高橋綾子

■トルストイの宗教及宗教觀……加藤一夫

■リーチ氏の陶器論に就て……石井柏亭

吾儕の望みは新文明を生まんとなり

科學

■藝術の科學的起原……小酒井學士

■生物と光との交渉……藤浪博士

■ジプシーの話……辻潤

■ありぢごくの一生……S、T、K

■未定……仁木博士

挿繪

□一面の畑及肖像……木村莊八

□自畫像……岸田劉生

□夕日の丘……石井柏亭

□風景……岡田三郎助

□靜物及人物……西村伊作

□愛の晩餐……ゲエイ

□勝利者……ウエレスチヤギム

東京牛込區西五軒町

天弦堂書房

振替東京貳九五九


Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

九月號の壯觀を見よ

# 新公論

一部二十五錢　税二錢

■世界の大勢……社説
■偉人を思ふ……社説
■上下盛に經綸を行ふの時機……上野岩太郎
■自殺の增加を如何……安藤枯山
■現内閣の前途を見む……淺海蠻塊
■戰後の財政問題……目賀田男爵
■二日一不平……谷本博士

■戰局善後の經濟論……社説
■政界の腐敗と選擧權擴張……岡悌治
■平沼檢事總長……鵜崎鷺城
■宗教家を教育家とせよ……西倉吉
■實業界の解剖……小島秋峯
■居据れる幽靈内閣……高島米峯
■宗教時感……廣池博士

## 萬報一覽

■軍事外交　■哲學倫理　■思潮文藝　■家庭衞生　■世界珍聞　■人物逸話
■產業經濟　■宗教教育　■美術音樂　■料理嗜好　■時事笑話　■雜聞雜件

## 三面記事評論

八月中の諸新聞三面記事の主なるものを拔萃して諸家か評論感想を執筆す
森田草平　生田長江　高島米峯　淺海蠻塊　安藤枯山　公論子等

■再び安倍能成氏に……三井甲之
■心臓の甕（飜譯）……森田草平
■一夜（森田氏の推薦によれる小說）……住吉の女
■幼兒に與ふ（短歌）……藤井黎白
■月見草（俳句）……松宮寒骨
■性慾と宗教……松の里人

■半獸主義者の家庭……安藤枯山
■公園に寢る人々……KB生
■在米同胞生活の暗黑面……歎憂生
■振袖和尚傳……放浪役僧
■短歌俳句社會欄の原稿を募集す
■人身電氣健康法……松里

文藝圖書目錄進呈

窪田空穗著　中村不折裝
## 萬葉集選
菊半截二八〇頁　絹地村彩色美本　四十五錢　郵税四錢

▲完成せる日本民族代表的歌集の評釋!!

窪田空穗著　中村不折裝
## 續萬葉集選
菊半截二〇〇頁　絹地村彩色美本　五十五錢　郵税六錢

讀賣新聞評　萬葉四千餘首中特に價値あるものを選び、簡單なる註解と評語とを附したり著者は古典の新鑑賞者として當代に類なし。其標準の極めて妥當にして藝術上の權威あること此小冊子をして千金の重みあらしむ。前編は短歌のみを收め、續編は短歌に長歌と「萬葉集の中心思想」てふ解題とを加ふ。

東京市本鄕區元町二丁目二十五番地　**日月社**　振替東京二八九一一四　電話下谷三二〇六番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

生田長江氏の新論文全集

## 最近の文藝及び思潮

四六版四百頁
布装美本箱入
金一圓税八錢

著者は權威ある文壇の高等批評家である。文壇の巨星森田草平、島崎藤村、夏目漱石、田山花袋、正宗白鳥の大物を俎に載せて手際よく庖丁目を入れて行く冴えは見上げたものである。著者の筆は鋭いがイラ／＼せず論理的であるがパッションを失はない。加ふるに其筆にデリケートなウイットを滴らしてゐる。尚「不正直なる沈默」以下十數篇は著者の自己及文壇に對する見識の正直且つ大膽なる告白で前の人物評論と合せて最近の文藝及思潮の精髓を窺ふに足る。（世界新聞）

森田草平氏傑作煤煙續編

## 縮刷 自叙傳

菊判四百餘頁
布装美本箱入
九十錢税八錢

此作は云ふまでもなく作者の興味ある生活をさながら打出せる粗き布のポツトリとした裂帛なり、ものとして「煤煙」と共に有名なり、安倍能成、阿部次郎兩氏の評を附す。（萬朝）

同じ著者の「煤煙」と共に最も眞面目に一生懸命になつて書いた作で、世をして驚嘆せしめ作者の地位を固めたものである。今や「煤煙特製」と同形同體裁の縮刷となつて現はれた。更に愛讀者を增すことであらう。卷末に著者の友人の評が收めてある。（讀賣新聞）

江部鴨村氏の新研究解説

## タゴールの思想及宗教

四六版二百頁
美裝優雅箱入
七十錢税八錢

タゴールの思想を消化し問題の要點を把握して自在に之を説明し去つてタゴールの内生命を紹介せんとしたる所は其の特色なり、タゴールを語るもの、中大體を領せんとするものに手頃の書として推薦す。（朝日新聞）

印度の哲人タゴールの思想と宗教との大體を何人にも解るやうに極めて平易明快に説てやがて來朝の噂ある哲人を迎へんとする我讀書界に資し及我等が思想生活を豊富ならしむる一冊たらしめた良書である。（國民新聞）

高濱虚子氏作長編 附錄子規書翰

## 子規居士と余

四六版三百頁
クロース美本
九十錢税八錢

子規と著者は同じく伊豫の土に生れ同じく俳名を一世に擧げ其交情師弟の如く兄弟の如く親友の如きものあり、著者故人を懷ふ事深く玆に此書あり更に故人の寄せた書翰百數十通を添へて之に江湖に示せり。（時事）

或時代の生める特異の文學者之を圍繞せる一團の青年、其清き文藝憧憬の念、是等が率直に叙述されてゐる一篇の作品と見るべく子規氏の傳記とも云ふべく而して又一面明治文學史の一部とも稱し得べし。（報知新聞）

發行所 東京本郷元町二丁目二十五 （振替東京二八九一四 電話下谷三二〇六） 日月社

■即位式御大典紀念 法學博士 廣池千九郎先生謹著■

大隈伯爵閣下補敎
文學博士故井上頼圀先生序
文學博士井上哲次郎先生序

# 伊勢神宮と我國體

四六二倍版總洋布特製三百頁
定價二圓送料内地十六錢臺灣
樺太卅五錢鮮、淸國四十五錢

廣池博士宗教的信仰を獲得するや忽然我國體の淵源に關して、大發見をなし先輩の賛同を得て舊著天覽「伊勢神宮」に神宮中心國體論を加へ改題發行するに至れり。

【神宮中心國體論】▲神宮を中心とせる國體論發生の沿革▲我建國の基礎的精神▲神宮皇居の分離▲天祖の御位置と歴代の御聖德▲我國體の淵源と我國運發展の方法

【伊勢神宮】▲伊勢神宮と我國體▲神宮創立の理由▲豐受大神宮創立の理由▲兩宮の御稱號御社格▲内外宮と支那の宗廟社稷▲兩宮神殿の御建築法▲神宮の御威德と教育事業▲神宮の大祭典と皇室及び國民▲神宮の神聖▲歴代天皇の神宮御崇敬▲明治天皇の神宮御崇敬▲神宮と學校教育並に軍隊教育等

【伊勢神宮附說】▲神宮御創立に關する古書の杆格に就ての考證、神宮古記錄の日本書紀古語拾遺等より確實なる理由▲皇大神宮の宮地の變遷▲神宮の沿革▲古代より維新前に至る神宮官衙の組織▲現時に於ける神宮諸官衙▲兩宮御祭典▲勅使及儀仗兵▲遷宮制度歴史▲大麻及暦▲行幸並皇族縉紳の參拜▲庶民の參拜並御蔭參り▲兩宮相殿の神▲別宮攝社末社等、其他數十項略

【附錄五章】【補說三十六章】

# 神社崇敬と宗教

菊半截總洋布製三百頁定價五十錢
送料六錢(宗教叢書五篇分)

【緒言】予は今日まで各地に於て始終神社の崇敬地方自治制青年修養等に關して講演を爲したのであるが其中にて神社崇敬の事が一番地方人に分つて居らぬやうであるから今回之に關する極めて大體の事を示す事にしたのである尤も此企は各地の神職諸君からも度々要求せられたのが一つの動機と爲つたのである。ほんにこれは通俗的にて且概說に過ぎねど幾分なり神社崇敬の趣意が一般國民に正解せられて其實際上の効果を收め得るやうになる一つの手引ともならば洵に國家の幸であると考ふ。

【目次】▲總論▲祖先崇拜と家族制度▲神社の歴史的性質▲國法上に於ける神社の性質▲神の實質と人心の訓練▲神社崇敬に關する國民の心得▲神社崇敬實行上の施設參考資料▲宗教的神道の信仰▲神道教會の必要▲普遍的宗教と神社▲予の天理教教育部に於ける施設の一斑▲神官神職の神社奉仕法幷に其修養法▲町村長の神社崇敬の心得▲氏子の神社崇敬の心得【附錄一】官國幣社一覽表【附錄二】神祇に關する和歌

發行所 東京本郷元町二丁目 宗教叢書新公論發行 電話下谷三二〇六番 振替東京二八九一四 日月社

# 御大典奉祝の御用意は

## 三越に限ります

大禮服、御紋服、その他御正装用附屬品一式は特に奉祝の意を體して御調製申上候。その他縮緬羽二重の模様ものを始め瓦斯羽二重袖下模様は申すに不及國旗、團体旗其他の必要品各種準備仕居候間御注文下され度、御照會次第早速詳細の御見積可仕候。

# 三越呉服店

東京駿河町

泰西文藝思潮の淵源

# 近代思潮叢書

菊半截美本 貳百五十頁 ― 定價各五十錢 ― 郵送料六錢

**五編** **印象主義の思想と藝術** 高村光太郎著

(愈々發賣)繪畫は勿論近代のあらゆる思想藝術の基調をなせる印象主義の最も忠實嚴肅なる研究書始めて日本に出現す。藝術に眞の領解を得んと欲する者は來れ。

**八編** **オイケンと現代思潮** 稻毛祖風著

(最新刊)オイケンに關する述作の祭物として喧傳せらるゝ時代は過ぎたり。彼の思想を通じて複雜多端なる現代思潮を究明し精神生活の妙境に到達せんとする士の一讀を俟つ。

**九編** **トルストイ人道主義** 加藤一夫著

(忽再版)人としてのトルストイは勿論、彼の思想生活の全部に渉り著者の最も力強き同感を共鳴と理解とを以て紹介批判せられたるもの本邦唯一のトルストイ研究書たるは疑はざる所なり。

重版復重版

- 一編 ニイチェ 超人の哲學 生田長江
- 二編 惡魔主義の思想と文藝 岩野泡鳴
- 三編 個人主義思潮 相馬御風
- 四編 未來及立體派の藝術 木村莊八
- 六編 タゴール 聖者の生活 吉田絃二郎
- 七編 ロマン、ロオランの思想と藝術 内藤濯

東京市牛込區西五軒町三五 **天弦堂書房** 振替口座東京貳九五五九番

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

■高濱虛子著 附錄 子規が虛子に宛てたる書翰全集

# 子規居士と余

四六版三百數十頁
クロース製頗美本
九十錢 税八錢

松山城下の野球(ベースボール)の遊びから子規の風丰を敬愛し初めた著者が文壇に英名を馳せ名士と交りホトヽギスを經營し最後の病床に子規を看護した迄の順序を小説風に書いたもので附錄も教訓に滿ちた興味深いもの

窪田空穗著
中村不折装

# 萬葉集選

菊半截形極彩色絹装
正編四十五錢税四錢
續編五十五錢税六錢
正三百頁續三百餘頁

本書は萬葉集を讀まうとして、その大部なのと、やゝ難解なのに煩ばされてゐる人に對して、その心核と見られる所だけを選んで、それに評釋を加へて、なるべくたやすく萬葉」といふものゝ大體を會得させやうとするのを目的としたものである。選をするに就ては、もとより私の好むところによる外はなかつたのであるが、しかし捉へられてゐる境そのものよりも、それを捉へた作者の心境と、その捉へられた境と如何に融合してゐるかといふ點を主とした。即ち作者の眞實が如何に表現されてゐるかといふ點を主としたのである(著者序文)

■生田長江先生著

# 最近の文藝及び思潮

(反響叢書第五編)著者自製美本
四六四百餘頁 金壹圓 送料八錢

著者が最近に於ける重要なる評論は悉く收めて本書中にあり。文藝を好む人々に一讀を薦む。著者は文藝批評殊に人物評論に於ては文壇の重鎭たり。

■森田草平先生著

# 縮刷 自叙傳

(「煤煙」續編再版)
布装七度刷美製
箱入六號四百頁
金九十錢税八錢

「煤煙」と共に著者の出世作として名あるもの、安倍能成阿部次郎兩氏の合評と著者の批評的自序とを加へ、「縮刷煤煙」と同型體裁にて出づ。一讀を望む。

發行所 東京市本郷區元町二丁目二十五番地(振替東京二八九一四 電話下谷三二〇六)日月社

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

昭和44年10月30日発行　　【第7回配本】

青鞜第5巻　7月号

編著者　平塚らいてう
発行者　藤原正人
発行所　(株)明治文献
印刷　江明印刷
製本　(株)三高製本

【分売はいたしません】　定価 4,500円

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

ASN
PER
P
756
S45
v.5
no.7

University of Colorado at Bould[redacted]
[redacted]4 6746547

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER

明治四十四年八月二十八日第三種郵便物認可 第五卷

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF COLORADO BOULDER